

平成19年度第1回中原区区民会議

日時 平成19年7月13日（金）14：00～

場所 中原区役所5階 502・503会議室

午後 2 時 02 分 開 会

1 開会

司会 皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまから平成19年度第1回中原区
区民会議を始めたいと思います。

私、議事に入りますまでの間、進行役を務めさせていただきます副区長の畠山と申しま
す。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に先立ちまして委員の方の変更がございますので、新しい委員の方への
委嘱をまずさせていただければと思います。

これは、今まで委員としてご活躍いただきました尾澤良二様が団体のご都合によりまし
て去る6月30日に辞任をされております。その後任の方として村上好正様に委員にご就任
いただきますので、委嘱状をお渡ししたいと思います。よろしくお願いいたします。村上様
は、そのお席でお受け取りいただければと思います。

それでは、区長の浮揚から委嘱状をお受け取りください。

〔区長から村上委員へ委嘱状を交付、拍手〕

司会 どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

それから次に、さきの統一地方選挙で新たに当選されました議員の方々にこの区民会議
の参与になっていただいておりますので、新たな市議会議員、県議会議員の方を私からご
紹介をさせていただきます。

まず初めに、川崎市議会議員 清水勝利参与でございます。(拍手) よろしくお願いい
たします。

同じく、川崎市議会議員 大庭裕子参与でございます。(拍手) よろしくお願いま
す。

それから、神奈川県議会議員 徳安久是参与でございます。(拍手) よろしくお願いま
す。

それでは続きまして、本日の会議についてございますが、この会議は会議公開条例に基
づきまして公開で行われることになっております。また、会議録を作成し、その会議録を
公開することになっておりますので、皆様方、ご了解をいただきたいと思います。

それから、本日、傍聴の方におかれましては、受付で傍聴者の遵守事項という紙をお渡
ししていると思いますので、その内容につきましてご確認いただきたいと思います。

続きまして、本日の会議の資料の確認をしたいと思いますので、事務局から願いま
す。

事務局 それでは、お手元の資料につきましてご確認をさせていただきます。

レジュメの後に、別添1としまして本日の席次表。続きまして、別添2と表記はござい
ませんが、委員及び参与名簿となっております。

資料につきましては、さらにめくっていただきまして、本日の会議のテーマの、今日お越しいただいておりますゲストの方のプロフィールをA4判で1枚。その後が資料2としまして、平成18年度「中原区協働推進事業」実施結果一覧表。続きまして、A4判で平成18年度中原区協働推進事業事業評価書になっております。資料4としまして、また大きいA3判の資料になりまして、平成19年度「中原区協働推進事業」計画一覧表となっております。もし不備等ございましたら、事務局の方までお申し出いただけますようお願いいたします。

司会 ありがとうございます。

なお、本日の会議に当たりましては、原参与からは所用によりご欠席との連絡をいただいておりますのでご了解いただきたいと思います。

それでは、区長の浮揚から平成19年度第1回中原区民会議に当たりましてのごあいさつを申し上げます。よろしく申し上げます。

区長 皆様こんにちは。お忙しいところご苦勞さまでございます。平成19年度第1回中原区区民会議の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

今日はちょっと危ない天候で足元のお悪い中、ご出席をいただきましてありがとうございます。私から申し上げるまでもないことですが、この区民会議は地域の課題を地域で解決するために議論をいただくという場でございます。昨年度いろいろご議論をいただきましたテーマにつきましては、各委員の皆様方それぞれの団体ですとか、あるいは地域にお持ち帰りいただきまして、またさまざまな取り組みを始めていただいているということでございまして、この点に関しまして敬意を表しますとともに、感謝を申し上げますと存じます。

中原区におきましても、区民会議に対しての職員の理解を一層進める必要があるということで、6月12日、13日、2日間にわたりまして、午前、午後と4回、全職員を対象に研修会を開催いたしました。その中では昨年度1年間のこちらの会議の結果の報告、あるいはビデオでの報告を行いまして、中原区職員300人強おりますけれども、共通の理解ということで努めたところでございます。昨年来の皆様方のご議論の中で、ご意見、あるいはご提案をいただいている案件につきましても、区民の皆様方と私ども行政との協働で取り組む必要があるという課題、あるいは行政として取り組むべき課題につきましては、私ども区役所としても積極的に対応していきたいと考えているところでございます。

今回、19年度第1回のテーマにつきましては運営部会の中で協議をいただきまして、既に皆様方にはご連絡を差し上げているところでございますけれども、「地域に参加し地域に学ぶ～みんなが地域活動に参加しやすくなるヒントを考える～」ということで設定をさせていただいております。よく言われることですが、大都市圏を中心にいたしまして、いわゆる伝統的な地縁的つながり、こういったものの地域コミュニティ機能の低下が言われているということでございます。

中原区では幸いにも地域の皆様方それぞれのところでいろいろ活発なご努力をいただいているということがございますけれども、例えば一つ例を申し上げますと、川崎市の方で平成18年度に町内会・自治会アンケートをやっておりますけれども、この結果の中では、役員のなり手がいない、あるいは役員の高齢化・固定化、こういった悩みが最も高い比率で示されております。中原区におきましてもそれぞれ6割を超える高い比率を示しているということがございます。

また、中原区ではご承知のように小杉駅を中心にいたしまして再開発が進んでおります。あちらこちらでまちづくりが行われているということで、急激な人口増加が見込まれております。また、将来人口推計におきましても、現在、中原区は21万9,000人ほどでございます。7区のうちでは一番人口が多いわけでございますけれども、今後もふえ続けて、2035年には24万2,000人までふえるだろうという推計も出ておまして、こういった新しく転入してこられた方たちの地域コミュニティの形成というのが大きな課題と思っております。

こうした新しくいらっしゃる方も含めまして、より多くの人たちが地域に関心を持っていただく、まちづくりに参加していただく、それによって地域に愛着を持っていただくということが重要であると思っております。こういった転入されてこられる新しい住民の方、さらには働く世代、あるいはこれから大量退職を迎える団塊の世代の方たちなど、地域に活動の場を求めの方たちがどうすれば地域活動に参加しやすくなるか、また、どうすればより多くの区民参加によるまちづくりが進められるかということについて、本日はご議論をいただけたらと思っております。

限られた時間ではございますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。ごあいさつとさせていただきます。(拍手)

司会 それでは、ここからの進行につきましては、横川委員長にお任せしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

横川委員長 皆様こんにちは。委員の方はしばらくでございましたけれども、元気で過ごしておられましたか。この会議に出た人は皆さんいい人生を送っておられるので、大変うれしく思っております。

今回は新しい区長さんをお迎えしての第1回目の区民会議でございますので、私もいささかちょっと緊張しております。何とぞご協力よろしくお願いいたします。

2 会議録確認委員の選任

横川委員長 それでは、次第に従いまして議事を進めていきたいと思っております。

まず、会議録確認委員の選任でございますが、恐縮ですが、大体順番に来ておりますので、こちらから指名させていただきます。

本日は内藤委員と松本委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

ろしいでしょうか。

〔拍手〕

横川委員長 では、よろしくお願いいたします。

3 議題 「地域に参加し地域に学ぶ」～みんなが地域活動に参加しやすくなるヒントを考える～

横川委員長 それでは議題に入りますが、先ほど区長様が細部にわたり細かにご説明いただきましたので、私から申し上げることも本当に少のうございますが、今回の議題は「地域に参加し地域に学ぶ～みんなが地域活動に参加しやすくなるヒントを考える～」ということでございます。

最近、大都市圏を中心に地縁的なつながりが形成される地域コミュニティの機能が大変低くなっていると言われていています。中原区におきましても、皆様ご存じのように、小杉駅周辺を中心に再開発が進み、急激に人口が増加することが見込まれておりますが、地域コミュニティの形成が課題となっております。

前回の私たちのこの委員の中の運営部会では、新しい住民の方も含めて、より多くの方が中原区に関心を持っていただきたいと思っております。まちづくりに参加することで、この中原のまちに愛着を持っていただくことが大切ではないかと話し合いました。また、そういった積み重ねが放置自転車やごみのポイ捨てなどのマナー、モラルの向上につながるのではないかと意見も出ました。

今回の会議では、こうした新たな住民や、皆様今言われています団塊の世代など地域に活動の場を求める人たちがどうすれば地域活動に参加しやすくなるか、また、どのようにすればより多くの区民の参加によるまちづくりが進められるかということについて、実際に地域で活動されている方の活動の事例を参考に議論をしてまいりたいと考えております。そのため、今日のビデオ報告では、実際に地域で活動している方々から、活動することとなったきっかけ、経緯、活動を続けるポイントなどに重点を置いて取材してきました。また、本日はビデオ取材にご協力いただきました4人の方々をゲストとしてお迎えして、こちらへいらしていただいております。今までの会議と少し趣を変えまして、ビデオと報告をごらんになった後、質問または感想をいただきたいと思っております。また、意見交換など多少なり時間があればよろしいと考えております。

それでは、まず活動の様子などを18分ほどのビデオにおさめていただいておりますので、ご一緒にごらんになっていただき、その後、ご意見を賜りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

それでは、どうぞ。

〔ビデオ上映、拍手〕

横川委員長 皆様、いかがでございましたでしょうか。

モハマド委員 よかったです。

横川委員長 よろしかったですね。

それでは、区民会議の趣旨をご理解いただき、取材などにご協力いただいた上に、お忙しい中、本日この会議にご出席いただきました4人の今映っていらした方たちをご紹介しますさせていただきます。

市立井田病院で園芸ボランティアをされておりました黒川登志恵様。(拍手)

とどろき水辺の楽校で写真記録のボランティアをされているほか、丸子通一丁目町会の広報部長も担当されておられました本告龍造様。(拍手)

老後を良くする会で配食サービスボランティアをされておられました山本幸彦様。(拍手)

次は、富士通フロンティアーズフラッグフットボールクラブのコーチをされておられた輪島章司様。(拍手)

以上、4名の皆様をご紹介いたしました。

それでは、ビデオを参考に、委員の皆様方からご意見がございましたらよろしく願います。また、黒川様、本告様、山本様、輪島様におかれましては、委員から質問やご意見を求められることがあるかと思いますが、そのときにはご遠慮なくご発言をお願いいたします。また、皆様の中からでも、このビデオでは満足できなくて一言ご意見がございましたらどうぞ。いかがでしょうか。

竹井副委員長 最初に発言させていただきます。4人の方々、取材協力どうもありがとうございました。多分この委員の方々はいろんな組織とか団体とかグループで活動されていて、人が入らないとか、そういう苦しみなり悩みをお持ちだと思うんですけども、今のビデオを見ていて何点か参考になるところがあったと思うんですね。一つは子どもを材料にして親を集めるという手段とか、セントポーリアのところでも話がありましたけれども、講習会とか勉強会みたいなものを設けて参加してもらおうとか、町内会のところでは役目をつくってあげることで引っ張り込むみたいな、ただ入ってくださいではなくて、具体的にこういうことがあるんですよとか、こういうことをやっているんですよとか、こういうことをやってほしいんですよみたいなことをはっきり言うというのがポイントかなと思って見ていました。

継続するところでは、ボランティアだったらば、何かしてあげたときに、相手からの感謝の気持ちみたいなものが伝わってくることで、またやってみようかなという気持ちが継続していくとか、肩ひじ張らないで自然体でやっていくことが大切とか、飲み仲間をつくるとか、いろいろあったかと思うんですね。

あと忘れてはいけないのは、中であつた困っていることとか、最初に入りづらいということがあつたと思うんですけども、例えば町内会だと参加してみないと何をやっているかわからないとか、ボランティアグループなり団体ですと何をしているかわからな

い。そもそもそういうグループがあることさえ、なかなか情報がないとか、そういう課題があるのかなと思っています。ぜひ今日これからは、皆さんそれぞれの団体の立場で参加している方もいらっしゃいますし、公募の方もいらっしゃいますけれども、自分たちの団体ではこんなことをやってみますみたいなご意見とか、今日の4人の方への質問も含めてなんですけれども、そういうことも言っていただけると非常にいいのかなと思っています。

あと区民会議も2年目を迎えましたので、この中で、みんなでこんなことをやっていこうとかいうようなことも意見の中からまとまっていくといいのかなと思っていますので、そういう何かやってみましょうみたいな提案も含めて、ぜひお願いしたいと思います。ちょっと長くなりましたけれども。

横川委員長 ありがとうございます。

どうぞ、ご遠慮なく。鈴木さん、どうですか。水辺の楽校の会長でもございますし。

鈴木委員 本告さんが活動してくださっているとどろき水辺の楽校の鈴木と申します。

本告さんは最初、ご自分のお子さんについてきていまして、大変熱心に写真を撮っておりました、最初のうち、まずご自分のお子さん中心の写真がとても多かったんですね。それで1年たったとき、ある日突然うちにピンポンと来まして、CDを持っていらしてびっくりしたんですね。えっ、こういうのをお撮りになっていたんですかと。その場で、ご自分のお子さんだけ撮らないで、全体の写真を撮ってくださいませんかとお願ひしまして、そのうち大変パソコンに堪能な方だということを見破りまして、ホームページもあるといいんですけどねと持ちかけましたら、喜んでつくっていただくようになりました。

先ほど町内会の方もおっしゃっておいりましたけれども、ただボランティア活動に入ってくださいと言ってもだめだと思いうんですね。その方その方の持っているスキルを最大限に生かせるような場をつくってあげると言ったら変ですけども、その場に合った仕事をさせていただくというのが一番だと思います。

最後の方に出ていた、渡辺さんという方は、すぐ近所の富士通にお勤めですけども、あの方も最初は「おれはそんなボランティアなんか冗談じゃない、ただ自分の子どもについて来ただけだ」とずっと最初から来ておっしゃって、そばでぶつぶつ「おれだったらこうやるのに」どうたらこうたらと、うるさいうるさい。それで、「あなた、そんな文句ばかり言っているのだったら、外で言うのだったら意味がないから中へ入ってやりなさいよ」と言ったら、「じゃ、やってやろうじゃねえか」ということで、今やなくてはならない存在になりましたので、おだてることも大事ですけども、時には厳しくチェックも必要かなと。

結局、ボランティアというのは弁当もけがも全部自分持ちなんですよね。何の補償もない。本当に好きでやってもらわなければならないので、ご自分の納得する活動を自分の思いどおり

にやっていただくというのが一番だと思います。

横川委員長 大変いいご意見で、そういう場合は男女の区別なくびしびしやった方がいいと私も思いますね。いかがでございましょう。お気づかれになった方、どうぞ。

吉房委員 今、ビデオを見まして、実は今日朝、自転車のマナーアップ運動をやっておりまして、私、何回か参加してやっているんです。それで、通っている人にお礼を言われたことは一遍もない。ところが、今日子どもさんが「ご苦労さん」と。びっくりしましたね。今まで何百人という人が通っていたのですが、だれもあいさつしてくれない。今日、その子どもさんが1人、「おじさん、ご苦労さん」と。この一言で随分、ああ、やってよかったなと、そういう感をひしひしと感じましたね。

一声、声をかけるということは非常にすばらしい。地域でやっていることに気軽に参加できるという雰囲気づくりは肝心なんですね。そういう一言がかなり身にしみて、そういうことができるんだなと。その一言を言われたことで、ああ、今日自転車のマナーアップをやっていて、今までで一番よかったな、これからもずっとやってやろうという感じが出た。

それはそれで置いておいて、これから地域のいろいろな皆さんと、参加しやすいということのヒントを今もらいましたけれども、私は私なりに一つの考えがございます。それは、人間対人間のコミュニケーションをかなりやっていかないと、なかなか参加することにはしてくれません。これにはやはり声をかけて、お互いに信頼し合ってやっていかなければだめで、上っ面では絶対だめだと思うんですが、自分が率先してやっていかないと、周りから見て、あの人がやっているからということを見せないと、なかなか参加してくれません。

もう一つは、やはり口コミが一番大事なんです。回覧とか掲示板、ああいうものをやっても余り効かない。口コミが一番いいんです。口コミで、こういうものをやっていますよ、こうですよということは一番効くんです。

これは実例なんです、うちの町会の会館で大人のおしゃべりをやっているんです。これはもう3年になるのですが、当初はそれに参加したのは3人ぐらいだった。今現在は20名ぐらい参加しているんです。最初はお互いに悩み、現在あったこと、これからしようということをテーマをつくらずに自由におしゃべりさせました。今はかなりレベルが上がって、テーマを一つずつ、今日はこのテーマをつくって、そのテーマについてお互いにおしゃべりしようということになったんです。当時は嫁さんの悪口、姑さんの悪口、病気の話、墓場の話、いろんなことをやったんですが、今はかなり違ってきて、テーマを持ち上げて、そのテーマをいかにして世の中に対してよくやっていくかということをやっています。これはおしゃべりの会というので、かながわカウンセリング協会の人がやっているのですが、これをうちの町会でやっているんです。私も時々行っているのですが、これは本当に高度なボランティア活動。ボランティアと一言で言っても、ボランティアと

いうのはいろいろありますけれども、これはなかなか大変なボランティアだなと思いで、そういうことも感じたわけでございます。

それからもう一つは、今のビデオを見まして、町会のことが出ました。私も町会長をやっております身にしみたことは、毎回私は言っているのですが、現在、町会の世代交代、それから高齢化は中原全体に言えるのですが、どこでもそうなのですが、高齢化するということは、もちろん町会で役員のなり手がいない。ただ、いない、いないと言うだけでは、それで済むということではないんですね。自分たちで率先して誘ってやらないと、なかなか町会の役員さんにはなっていない。また、町会の活動は何をやっているかが見えていかないということは事実なんです。お祭りだとか運動会だとか盆踊りだとか、そういうことに参加してもらうことが一番お互いに話し合える。お祭りという場所はコミュニケーションが一番図れる場なんですね。そういうことから見まして、「地域に参加し地域に学ぶ」ということが出ていますけれども、そういうことが基本になっていって、これからだんだんそういうことが進んでいくのではないかとということを私は思っております。

そんなことで、まだありますが、後でまた言っていきます。委員長に、私は長いと言われちゃうといけないから。

横川委員長 後になってお時間はないかもしれませんが、そのときはごめんなさいませね。

本当に貴重なご意見がたくさん出ております。今日は4つの部門で展開されておりましたけれども、こちらの方たちから何か補足することはございませんか。大変立派にできたビデオでびっくりしたんじゃないですか。

輪島氏 今日はこのような会議に出席させていただきありがとうございます。フラッグフットボールをやらせていただいている輪島と言います。

追加でというわけではないんですけれども、実は今、まさに川崎で世界一が決まろうとしている大会がありまして、アメフトの世界カップ。私がボランティアというか、こういう活動をしているきっかけというのは、アメフトにもう20年ぐらいお世話になってますけれども、そういうお世話になったスポーツに対して恩返しというか、それをぜひ広めていきたいという思いでやってまいりました。その思いはずっとこれからも続くと思います。まさにそういう意味で、今回いいきっかけになって、この世界カップをぜひ成功させたいなという思いで、実は世界カップのボランティアも会社をちょっと休みながら、あと土日も、さっきのフラッグフットボールを終わってから参加しています。実は15日に決勝戦がちょうど等々力で、日本対アメフトの本場のアメリカの決勝戦があります。ぜひ皆さんにも来ていただきたいなと。台風が来ていますけれども、まだ当日券はかなり余っているらしいので、お近くの方を誘って、ぜひ来ていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

横川委員長 ありがとうございます。

山本氏 老後を良くする会でお年寄りの家庭にお弁当をつくって、週1回、月曜日のお昼だけなんですけれども、配食をさせていただいています。今、1回に大体35食ぐらいのお弁当をつくって、3班に分けて車にて各家庭に配らせてもらっています。地域は丸子、中丸子、小杉、そういったところを中心にさせてもらっています。お昼ということなので、少しでも早く届けてあげたいという気持ちから、3つの班でお弁当を配っております。

このお弁当を配るといのは、ただつくって配らせてもらうだけではなくて、それぞれのお年寄りの家に行きまして手渡しで条件で、必ずその方たちに手渡しをしながら、顔色を見て、元気なのかという見守りも兼ねております。

最初に配らせてもらった、あるお年寄りの方は足がちょっと不自由な方で、玄関にまでも出てこれなくて、そこの方がおられる部屋まで上がってお弁当を届けていた方が、最近では外に出られて花を植えたり草をむしったりしている姿を見させていただいて、本当に元気になられた。そういったことを感じるだけでもすごく素晴らしいことであるし、また、それをただ自分だけで見て帰るのではなくて、お弁当をつくってくれた人たちに、あの方は最近外へ出て花を植えたり草をむしっていますよということを話をさせてもらうと、皆さんがそうやって喜んでくれるんですね。そういったことも感じながらお弁当をつくらせてもらっています。

それを楽しみにしている方がだんだん増えてきまして、お弁当を配る時間にはわざわざ外まで出ている方もおりますし、届けるときに「おいしいお弁当ありがとう」と、その一言がつくっている人たちの励みにもなってさせていただいています。

横川委員長 ありがとうございます。お弁当は1食お幾らぐらいにつくのでございましょうかね。

山本氏 お弁当1食500円でさせてもらっています。お弁当も工夫しまして、松花堂弁当の中に陶器の器を使って、500円でも見た感じ豪華に見えるようにさせてもらっています。見た目、味、そういったものでも楽しんでいただきたいなと思っています。

横川委員長 ありがとうございます。

黒川氏 井田病院ですけれども、私たちのボランティアはとても恵まれておりまして、今、映像の中にもありましたように、病院の中に一部屋いただいで育成をしていますので、とてもぜいたくな環境にいると思います。そして、私たちは病院内の中でボランティアを受け入れてくれる組織がとてもしっかりしておりまして、その方々がいらっしゃってゆえの活動ですので、自分たちで立ち上げたとか、そういうことではないので、とても守られての活動なんですね。ですので、困ったこと、どうしようかということも相談できますし、自分たちでも困ったことを話し合いますけれども、でも、病院が、というか川崎市中原区の方々だと思うんですけれども、とても支えてくださるので、ちょっとほかのボランティアさんと比べて恵まれています。こういうボランティアの活動もあっていいので

はないかと今感じました。

横川委員長 ありがとうございます。では、本告さんはいかがでございますか。先ほど眞智子さんが全部言ってくれましたけれども、どうぞ。

本告氏 町内会と水辺の楽校とをやっておりますけれども、先ほど話もありましたように、高齢化と申しますか、町内会で私が一番若手じゃないか。もっと若い人はいますけれども、それは子どもの野球チームを取り仕切ったり、そういう人たちが若い人がぼつぼつといるだけで、ほかは私より年上なんですね。もっと若い人に町内会の活動に入ってほしいと思っております。

それに比べて、水辺の楽校というのは幼稚園、もしくは赤ちゃんまで連れてお父さん、お母さんたちが参加してくれて、いつの間にかその人たちが会に参加してくれるというすばらしい会です。次は源流体験ですけれども、ふだんは月に1回から2回程度のペースで、すぐ近くの等々力の河川敷で活動をやっております。ホームページもありますので、ぜひボランティアで皆様参加してほしいと思います。

横川委員長 丸子地区だけでも存じ上げていない方は結構いらっしゃいますよね。皆さんに宣伝してくださいませ。どうもありがとうございました。

高島委員 まずビデオを拝見させていただきまして、子どもさんの生き生きした姿はすばらしいと思えました。こういうすばらしいビデオをこの会議だけで拝見するのではなくて、駅前とか外で一般の人が通りすがりに見れるような映像を一つか二つ、10個でもいいんですけれども、横目で見ながら、お子さんが活躍している部分が大勢の目に触れることをぜひ私は提案したいと思っております。

今年5月、中原街道時代まつりに水辺の楽校さんが参加していただいたんですけれども、その勢いのいいことと、子どもさんのしつけの上手なことはすばらしい。

鈴木委員 済みません。皮肉。

高島委員 いや、皮肉じゃなくて、本当に尊敬いたしました。ですから、お子さんが外遊びをしないと、地域に子どもの影が日常見えませんわね。ですけれども、こういう水辺の楽校へ行くと、あれだけ自然体。私どもが子どものときにやっていた遊びをそっくり継続してやっているということは、大いに何らかの形で広げて活躍していただきたいと思っておりますけれども、その設置の方をぜひ区に。そういうお金の使い方は有効ではないかと思えます。

内藤委員 内藤です。1年間去年やりまして、これに似た報告書をつくっていただいて、とてもいいまとめでできたと思うんです。私の事業所に、私は学童保育教室をやっていますもので、こちらにいる方はみんないろんな会議に出たりして、中原区のいろんなことに活動をなさっている皆さん方なので、私は私のところに来ている一般のサラリーマンのご家庭の方にお見せしようと思ひまして、これを40部ほどいただいて、小学校1年生を持つ保護者の方に配りました。中原区の区役所では私たち区民も一緒になってこう

いう活動をしたんですよ、もしお読みになって何かご感想があったらくださいということで、ここにそのまとめたのがあるんですけども、30数人の方が感想を書いてきてくださったんですね。せっかくですので、ちょっとご紹介したいと思うんです。

それで、その後2点ほど質問があるんですけども、まず、こういうことで皆さんが区をよくするために活動しているというのを知って、すごくうれしかった、よかった、子どものためにいろんなことをやってくださっているのありがたいという率直な感謝の言葉と、自分も何かできることからやってみたい気がするという、小学校1年生の保護者ですから、僕らよりはるかに若いお父さん、お母さん方だと思えるんですけども、そういう意見が本当にありました。

これは区役所さんにも、今後の参考にしてくださいみたいな形でお渡ししてあるのですが、その中で2点ほどあったんですけども、活動する上でどうやって活動に入るかということですが、一番いいのは、顔を見て「一緒にやらない？」と言えいいんですよ。ところが、学童保育に私のところに子どもを預けている方は共稼ぎですから、当然ふだん昼間もお忙しくしている。だから、うちみたいな場所が必要なわけで、そうすると、広報紙に掲載してあって、広報紙そのものも区役所の窓口で配布なんて書いてあると、なかなか自分の手元に情報が入らないということがある。ボランティア活動をしたんだけど、何かありますかというお問い合わせは、現実問題として区役所の窓口には結構来るんですか。そこら辺の実情を知りたいというのがまず1点。

横川委員長 時間がございますから手短によろしく。

事務局 わかりました。私どもの区役所の方には直接的なお問い合わせはないと思いますが、市民館さんの方にとか、そういったような活動をされているところには幾つかあろうかと思えます。

内藤委員 でも、僕らが何か活動したいなど、特にここの生まれじゃなくて、住居事情によって、それにまた今回再開発されると、あれだけたくさんの方が新しく新住人として来るわけですよ。そうすると、区役所を頼るということは絶対あるので、ぜひ区役所の方には、お花が好きでしたらこういうのがあるんですよとか、お写真が好きでしたらこういうのがあるんですよと、これは以前、前の区長さんのときにも、その対応が後手に回らないように役所サイドでどんどん新住民の人に対する対応をした方がいいという意見を私、述べさせていただいたんですが、中心にある区役所でぜひ参加しやすい——区役所へ行けばいいだろうというのは多分あると思うので、ぜひ早速そういう窓口なりチラシなり、さっきもお話があったように、ああいうのを区役所で流したっていいわけですよ。ですから、どんどんやっていただければなど。

それからもう1点は、ある方はボランティア情報をウェブでいただくんですけども、ウェブに関して情報が相模原社会福祉協議会しかなくて、川崎は窓口で問い合わせてくださいということで、近くに住む川崎の情報ウェブが閲覧できればと感じていますと。要す

るに、今はこういう時代ですから、済みません、私もきちんとチェックしていないんですけども、先ほどの水辺の楽校でさえホームページを持って活動されているわけで、区役所にホームページがあって、ボランティア一覧表とか、そういうのが現実にはあるわけですか。

区長 いろいろなボランティア活動等々の区役所での広報ということだと思いますけれども、実は今年度で、後ほどございます協働推進事業の中で市民活動支援サイトというインターネットでのそういったものを立ち上げるということで、今実は準備を進めているところでございます。

内藤委員 私も区役所の会議に出ていると、本当にいろんな活動がなされているので、ぜひ若いお父さんたちも、先ほどの方たちみたく土日なら何とかなると。普通の例えば今日みたいなこういう日に出てこいといっても、会社勤めなら無理ですけども、日曜日のひとときなら何とかできると。

それからもう一つは、さっきのお話、4つのを見ていて、4つそれぞれちょっとやることは違ってても、キーワードみたいなのは、親子で活動できると——親子でも夫婦でもいいと思うんですけども、家族ぐるみで活動できると仲間ができるのではないかな。それから、人に喜んでもらえるようなやりがいを感じるとか、自分や子どものためになるというか、フロンターレのあれにしても楽しいからやっていることで、楽しくなければなかなかできないと思うので、そこら辺がキーワードかなと思うので、ぜひやっている方の楽しいというのをウェブとかホームページに入れて、どんどんお声をかけて、「若いお父さん求む」みたいな形で、子どもが出てくればお父さん、お母さんも出てくることはすごく多いと思うので、ぜひそういう形でもご協力いただけるといいんじゃないかなと思います。

横川委員長 どうもありがとうございました。ご意見、大変ありがたいと思います。今やっている私たちの活動は、私たちはもうあの世へ行く先が見えていますから、自分のお子さん、またお孫さんのために大人はこれだけのことをしたんだぞというしっかりしたものを残して残していきたいなど、常々思いながらこの会を進めておりますので、何とぞその点、ご自分じゃなくて次の世代のことを考えながらよろしく願いいたします。

ご意見はまだまだあると思うのですけれども、もう一つ大きな議題がありますので、この辺でよろしいですか。もう少しご意見を聞いてもよろしいでしょうか。まだいいですね。もう少し皆様からご意見がございましたら。

選挙のときだけこんな大きいあれじゃなくて、ああいうのに流せるようなのが駅とかこういうところにちょっとあると、中原の目玉になるんじゃないありませんか。区長さん、それをよろしく。

モハammad委員 今日は遅れて来まして申しわけないのですが、それでコメントを控えようと思ったんですが、時間があるということで。ボランティア活動について大変立派なビ

デオを拝見させていただいたのですが、私が感じるのは、日本でのボランティア活動というと、ほとんど仕事を持っていない方が主にやられるということなんですね。ですから男性の場合は大体定年後、女性の場合は仕事を持っていない女性、専業の方とか主婦もいらっしゃるのですが。今の場合は日曜日とかのもあったんですが、仕事を持っている人でも、そういう方々も参加できる環境をもう少し工夫する必要があるかなと思うんです。

先ほどの話もあったんですが、一人一人が入って自分の居場所がなければ、なかなか参加できないんですね。例えば水辺の楽校をやっていますよというのを、私自身の場合を言うと、音楽関係とかだったら興味はないけれども、こういう自然の関係だったら非常に興味があるのですが、ただ知るだけではなかなか参加できないんですね。やっぱり声をかけられるとか、あるいは口コミとかという話もあったですし、鈴木さんもおっしゃったように、そこにその人のスキルが生かせるようなとか、何か工夫がないとちょっと参加しづらいなという部分があるんですね。

先ほどからお子さんと親御さんが一緒という話もあったんですが、それはもちろんそれでいいのですが、独身の人々も参加できるような、特にひとり暮らしの人たちは大体、地方から仕事で来ているとか、そういう場合も時間がある。ですから、すべての世代が何らかの形で、ある人は週3回何かの活動をするかもしれないけれども、ある人は1カ月に1回だけかもしれないのですが、もうちょっと参加しやすい環境が必要かなと思います。

先ほどのビデオにもあったんですが、町内会というのは、参加しない人から見ると本当に何をやっているかわからない。本当にあんな組織は必要があるのかとってしまうケースがあるんですね。ですから活動が見えてこない、そこのおじさん、おばさんがお祭りのときにちょっとやっているだけだと見えてしまうから、そうではなくて、こういう活動をしていますよとか、住民にはこういうプラスの影響があるよというふうに積極的に訴えないと、特に新しく入ってくる人には見えてこないから、もう少し全員が参加できるような環境がいいかなと思います。

横川委員長 ありがとうございます。それでは、あなたは水辺の楽校に参加したいわけですね。

モハammad委員 はい。

横川委員長 先ほど言ったでしょう。そういう機会にぜひいらしてください。

東田委員 青少年指導員の東田と申しますが、今、期せずしてモハammadさんの話もありましたけれども、子ども会活動ですとか、またただいまの富士通のフラッグフットボールクラブ、それから水辺の楽校についても、小さいお子さんとお父さん、お母さん、そういう関係で結構いろんなところで活動しているのですが、私ども青少年指導員をやっております、いろんな問題を起こしているのは中高生ということで、今お話にありましたとおり居場所がなくなってくる。何で継続した活動ができないのかなとふと思っているわけですね。

そういう中で、水辺の楽校、それからフットボールクラブにぜひ中学生、高校生を取り込んで、子どもたちを健全に、それから非行のない地域にしていくようなことに努力していただきたいと思います。いいことですので、これを続けながら、ぜひ中学生、高校生を取り込んでいただきたいと思います。

横川委員長 ありがとうございます。確かに小さいときにはご父兄は熱心に学芸会でも何でも家族総出で来るんですけども、中学、高校という、親もちょっと離すところがありますから、東田委員のおっしゃったように一番難しい時期だと思うんです。ぜひそういうときこそ親も目を離さないで、しっかりと親と行動していただけるように仕向けていただけるとありがたいと思います。

三竹委員 今日はずばらしいビデオをありがとうございました。一つだけ、うちの町会でこれから立ち上げようとしているものがあるので、それを簡単にご紹介申し上げます。

今月の7月28日に、大変小さな集まりではありますが、パパーズクラブを立ち上げることです。それは母親クラブの方のお力添えで、なかなかそういった会合にお父さんが出ていらっしゃらないということで、お子さんと奥さんに引っ張られるような感じで、お寺さんの集会所を借りましてまずやってみようということで、いずれはそういった方が町会の役員にもという陰の考えもあるようでございます。どの程度成功しますかどうか、ご紹介だけ簡単にさせていただきます。

内容は、入り口を広く楽しくということで、親子サマーコンサートということ。それから入って、いろいろなお芋掘りとか枝豆取りとか、そういうのにも誘って、いずれは町会の役員ということらしいです。そういう心根もあると聞いております。一応ご紹介まで。

生富委員 まず一つは、ダブるんですけども、先ほど出ていましたこういう活動は大きく分けて、子どもを中心とした話と、それからお年寄りとか、病院というのは弱者が入院しているわけですけども、そういう2つの話が出ているわけでございます。こういうボランティア的な会について区役所は把握されているのでしょうか。今日は非常にいい例が出たのですが、どれぐらい知っておられるのか。

事務局 先ほどご紹介させていただきましたように、今年度の事業で市民活動支援サイト事業を立ち上げようとしておりまして、そのために昨年度から地域でどのような活動をされているか今調査をかけているところでございます。ちなみに、昨年度は事前準備ということで大体500ぐらいの団体さんにお声かけをさせていただいてまして、半数以上の団体さんからは、こちらの計画の方にご賛同いただきまして回答をいただいているところでございます。まだまだ実はそういった活動はあるかと思うんですけども、今年度の市民活動支援サイトの計画に際しましては、なるべく多くの団体さんの参加ができるように区役所からもいろいろ発信をかけていきたいと思って、把握をしたいと考えております。

生富委員 もう一つお聞きしたいんですけども、川崎ではスポーツ審議会というのがあ

って、そこでいろんなスポーツを支援していこうという話で、中原の場合ですと等々カーリーナでございますけれどもね。だから、そういうところでいろんなクラブの立ち上げを行政の方から支援する姿勢はございますでしょうか。

横川委員長 支援ということは、看板とかそういうのではなくてお金ですか。

生富委員 お金も入ります。

横川委員長 区役所の方もその点はいかがでございましょうか。

区長 一部、地域スポーツクラブのような形でのものが教育委員会の事業としてはございます。区役所としては今現在そういった取り組みはしていないところでございます。

ただ、この場で申し上げるのが適当かどうかわかりませんが、今、区役所の中でもまた来年度の事業などに向けまして、スポーツ、文化を通した地域活動の活性化というようなことで、来年度以降どうやって取り組んでいくかということの検討を始めているところでございます。今ご紹介がありましたように、区内にはフロンターレを初めとして、NECさんですとか富士通さん、三菱ふそうさんですとか、その他、いろいろな企業スポーツのトップアスリートの方もいらっしゃいますし、あるいは学校でも橘高校ですとか、かなりスポーツ活動が盛んなところがございますので、そういったところと地域でのいろんなスポーツ活動と連携でどういう取り組みができるかということは今議論を始めているという段階でございます。

生富委員 今お話を聞いていると、よくわかりましたけれども、川崎としてはスポーツの振興に非常に力を入れているけれども、今日は同じようなものを区の版でやっているわけです。それは確かに川崎の教育委員会がやっているんだと思います。その辺がやっている志と、今日の話の志は一緒なので、その辺のことはお互いに連携してやっていただきたいと思います。

それからついでお話ししますけれども、輪島さんの話で、アメフトは前にお話があったごとく、川崎をアメフトの中心にしようということで、全校でフラッグフットボールをやるという話はたしか決まっていたと思います。それから、アメフト以外にもいろいろサッカーのクラブとか野球のクラブとかいっぱいあると思うんですけども、そういうものにも目を配る必要があるのではないかと思いますね。

それからもう一つ気になったのは、山本幸彦様がやられている食事のボランティアですけれども、私が知っているところだと有料というか、もう少し高いんですかね。食事を配っていることをなりわいとしている会社があると思いますけれども、その辺はどのようにとらえておられるかお聞きしたいですね。

横川委員長 こちらはボランティアとおっしゃっている。山本さん、どうでしょうね。

山本氏 今、私、中原老後を良くする会で配食をやっているんですけども、ほかにもそういったボランティアでやられているさくら会も、毎週ではないみたいなんですけれども、お年寄りのところへお弁当をつくって配食をされている。市ノ坪の方を中心という形

で、その会の会長さんのお話を聞かせてもらったときに、市ノ坪住宅は今高齢化の人たちが大変多く住まわれているところで、配食をしているときに亡くなられていた方があったということも話を聞かせていただきました。その会も配食しながら見守りも一緒に兼ねて、ひとり暮らしの方がだれにも見守られずに亡くなられていたという悲しいことも実際あるという話を聞かせていただきました。さくら会というところもそういった配食活動をしております。

横川委員長 ありがとうございます。ご理解いただけましたでしょうか。

松本委員 子育て支援の方で出ております松本と申しますが、区民として、区役所にそういう窓口があるということで、どこか1カ所に聞けば全部すべて情報が網羅できるような団体間のネットワークというのが大切だと思います。先ほど広報紙を見てボランティアに参加されたというお話もありましたけれども、広報紙というのはたくさん方がごらんになりますので、そこでそれぞれの活動を案内して募集をかけていくというのも大切です、お互いに区民会議に出ている我々委員も、中原区にどういうボランティア団体があってどういう活動をしているかという情報も持っていた方が、お互いに新しい方を受け入れるときに、あそこではどういうやり方をしているかとか、うちはどうしたらいいかという問題点の解決にもなると思いますので、ぜひその辺のネットワークづくりも大切だと思います。

横川委員長 ありがとうございます。委員の方たちはここでお話して、いろんな知識を得ましたね。これをうちへ帰って家族だけではないんです、まちとか町会とかあらゆるところであなた方はそれを広める責任もあるし、皆さんにご理解していただくように上手にお話ししていただきたいと思います。

宮本委員 労働団体というか、組合員の代表で来ています宮本と申します。先ほど来、富士通の名前が数多く出ておりますが、うちの会社もそうですが、多くの川崎に勤めている企業の方はお忙しい方がいらっちゃって、なかなか参加できない状況にあるのではないかな。参加しても、自分の居場所がなかなか見つけられない方が多分多いのではないかな。先ほどのように相当叱咤激励していただいて、逆にやってやろうという人も多分いるかと思しますので、ぜひ優しく受けとめていただければなと思っているのが1点。

やはり地域に参加をしたいという方は多分多いと思うんです。ただ、入り口がわからない。先ほど言ったように、町内会でも自治会の活動というのは全く参加をしていないという方が多分多いかと思うので、そういった方を若いうちからといいますか、40代、50代ぐらいから少しずつ取り込んでいかないと、三竹さんがおっしゃった新しい役員もなかなか出てこないかなと思っておりますので、そのためにはいろんな活動をしていることを、先ほどウェブでこれから立ち上げるというお話がありましたけれども、ウェブも見るといけば見ない人もおりますので、まず最初は広報紙かなんかでこういったのがありますよというのをぜひ出していただければいいのかなと。その後はウェブで随時追加していきます

ということでやっていただければいいのかなと思いますので、ぜひその点をお願いしたいと思います。

労働組合やいろんな団体を含めて、ウェブが立ち上がれば中原区に住んでいる方はたくさんいらっしゃると思います。ただ、働いている場所は川崎区だとか幸区だとかも結構いらっしゃると思います。そういったところにもこういうウェブがあるよということを紹介ができると思います。そういった意味で中原区以外のいろんな地域の活性化に向けて努力をしていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

横川委員長 ありがとうございます。ちょっと質問ですけれども、土日はお休みはきちんと勤労者に対して与えておりますか。

宮本委員 はい、与えているつもりでございます。

横川委員長 では、地域に参加できる状態でございますね。

竹井副委員長 一つは、先週、総務省から社会生活基本調査という調査の報告が出たんですね。去年の10月に調査したんですけれども、それでボランティアの参加パーセントというのが出ていまして、今年度、ここ1年のうちに何らかのボランティアは、ちゃんとやっているものもあるし、ちょっと参加のもあると思うんですけれども、26.2%なんですね。5年前と比べると2.7%減少している。その中の調査で、スポーツをやっているというパーセントも実は6.9%減っているんですね。ボランティアだけではなくて、全般的にいろんな活動が減っているというのは、多分景気というか経済が一番大きな影響かなと思うんですね。

企業も従業員に働かせるだけではなくて、最近、ワーク・アンド・ライフ・バランスとかという言葉もありますけれども、地域に返すとかそういったことを積極的に評価しないと、成績を上げるだけが評価の対象になっていきますと、残業しなさいということになってしまいますので、そこを変えていかないとこの辺は変わっていかないのかなと思います。

一番これを変えやすいのは実は役所ではないかと思っているんですね。役所も全職員の方に自分の地域で何らかの町内活動でもいいしボランティア活動でもいいし、そういったのをやりなさいということ積極的に推奨して、年に1回報告書を簡単なものをつくって、それを書いて提出すると評価点が10点上がるとか、そういうことを区役所の中、市役所全体でもやっていけば、役所の方もいろんな意識が変わっていくし、ぜひそれを1個やってほしいなと思うんですね。まず中原区役所の中でもいいんだと思うんですけれども。あと先ほどの宮本さんのようなところでも、労働組合を中心に各企業にも働きかけてそういう運動をしていかないと、ただやりなさい、やりなさいと言っているだけではなかなか始まらないのかなと思っていますので、区役所については本当に真剣に考えていただきたいと思います。

横川委員長 ありがとうございます。そうですね。今こちらの方がおっしゃったように、経験したものをレポートにするなんていうのは国が好きな状態だけれども、どうでし

ようか。教員だって10年ごとに身分のあれでレポートとかいろいろなことをしておりますけれどもね。余りそんなにかたくは考えないで、でも、区役所では土日でも出されることがあるから大変ですよ。それは私たちが地域と密着しているからよく存じているんですよ。これではおうちへ帰って家庭サービスもとても無理だなと思う方はいっぱいいらっしゃると思いますものね。本当に大変だと思いますけれども、あなたの意見も一理あるわよ。とてもよかったですと思います。

佐野委員 公募で出ております佐野と申します。四方は素晴らしい活動をしていらっしゃるのを画面を見まして、映像もすばらしくでき上がっておりますので感動いたしました。ぜひ長く継続していただきたいなと思っております。四方は地域に今、居場所があるな、すごく輝いて生きていらっしゃるなというのをうれしく思っております。これからもやりがいという「貝」を背中にしよいながら、眞智子さんに本告さんは追い立てられながら、写真を撮りながら、ホームページをやりながらこれから頑張っていくと思っております。

皆さんからきっかけはというお話を伺ったら、子どもがやっているからとか、病院に行かれていて様子を見て私もやりたいなとか、仕事をやめてこんなことをやりたいなということから始められたり、不純なきっかけで、声をかけられて強制的にやられたわという方もいらっしゃるんですけども、先ほどからボランティアという言葉がございます。私の活動も、いろいろやっていますけれども、決して強制ではなくて、好きだから、仲間がいいから、本当に今、生きていてやりがいがあって、感謝されてという部分で生かされているなど、喜んでくださる方に感謝しながら毎日生きているような状況なんですね。ですから、このボランティアという言葉は余り好きじゃないんですけども、決して強制されてやるものでもないですし、これをやりたいからといって最終的にそれをやっているかというところ、そういうものでもないし、たまたま声をかけられて仲間がよかったから一緒にその活動に溶け込んで一生涯やってしまったということもあると思っておりますので、ぜひ肩ひじ張らずに地域の中で声をかけて、一歩半歩踏み出してみようということはすごく大事なことで、なというのを改めて感じさせていただきました。

私の知っている方から地域活動のヒントになることということでお話を伺ってきたんですけども、ボランティアということ意識しないでできることかなと。「今、自分のできることは何？」と聞いたら、「声かけぐらいだったらできるわ」「お庭の掃除だったらできるわ」「草むしりだったらできるわ」とか、そういうところがボランティアの基本だと思いますので、何もできないことを無理して背伸びしてやる必要もないと思っておりますので、職員の方たちも強制してやりなさいよということ言われていましたけれども、強制ではございませぬので、ぜひ自分の今できること、子どもに声をかけること、お年寄りに声をかけること、地域の中でちょっとした缶拾いとかごみ拾いとかをすることは、1日1個でもできると思っておりますので、そんなことから仲間を増やしていくことはすごく大事なことで、かなと思っております。

今、吉房さんがいらっしゃる前であれなんですけれども、町内会というのは一つのキーポイントだと思うんですね。その中から一步を踏み出して、当番だからとやってみたらおもしろかった、仲間がいた、居場所があったということで続けていらっしゃる方もいらっしゃいますし、町内会は飲んでばかりで魅力がなくて、町会費を払っていてもむだだわというところも、ないとは思いますが、魅力ある町内会づくり。一番小さな単位が町内会だと思いますし、我々がやっている活動だと思いますので、魅力ある町内会づくりというのは今後いろいろ課題の中で検討していく必要があるのかなど。それが一つ、まちづくりのため、これから小杉の再開発で新住民もいらっしゃいます。それも地域の中で一緒に活動していけるヒントになっていくのではないかと考えておりますので、私も頑張ってお子育て、青少年、すべてやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

横川委員長 ありがとうございます。大変いいご意見、参考にさせていただきます。

時間もだんだん迫ってまいりましたけれども、ほかにございますでしょうか。

内藤委員 この会議に出席していてちょっと違和感を最近持つようになったのは、今日のビデオもすごくよかったですし、本当に幸せ感というか、うまくいっている事例が出てきて、私、以前にも言ったんですけれども、表と裏があって、これだけの人が立ち上がって何かやろうと、それも区役所さんでいるなら、もうちょっと裏の部分に目を向けてもいいのではないかと。これはここで言うべきことか運営部会で言うべきことか、今悩みながら私は発言しているんですけれども。

というのは、先ほどアンケートをいただいた中に、これはごく1名の方なのですが、この会議のあり方について疑問を投げかけているんですね。例えば今日の資料のマスタープラン、私もこれに関係してきたので今のこの立場があるんですけれども、それからこの間の資料もすごくよくできていますよね。これは幾らぐらいの予算がかかっているかわからないんですけれども、こういうのを区役所がつくるときのお金の配分はどうなっているかわからないんですけれども、例えばこの場の設定にしても、ある方は、今はエコ活動がみんなに叫ばれていて、マイはしだとかマイペットだとかマイバッグだとかいう話があるときに、こちらでこういう状況の中でのお金の使い方がいいものだろうか。言ってみればそういうことなんですけれども、これは本当に人それぞれの考え方で、会議に来て、これ（お茶のペットボトル）が1つあることぐらいは、私は欲しいなと思っておりますが、ある方はこれはどうなんですかとおっしゃる一般の住まわれている方もいるんです。

ですので、正直言うと、ここで話をしている、いいことづくめの、確かに中原はいいところだと思います。本当にアンケートの中でも、中原は交通の便がいいから住んでみてすごくいいと。子どもにもいいと。でも、やっぱり駅前駐輪のことですとか暗い街灯のことですとか子どもの安全のことですとか、皆さん心配事はあるので、これからはやっていくのですが、もう少し表の面の話を上調子で、足が余り地についていないというか——地

についていないというのはごめんなさい、ついているんですけれども……。

横川委員長 そう、ついていますよ。

内藤委員 ついているんですけれども、その後ろ側の部分も絶対あるはずなので、もう少しそういうことを取り上げて、ここには議員の先生方もいらっしゃるし、私たちがこれだけの議員の先生方と一緒に会してお話をするというのは、個人個人なら私が松原さんと話すとかだれだれさんと話すということはできるとしても、できればそういうことをもうちょっと区の方で考えていただかないと、ただ任期の間、いいことづくめの話をずっと聞いていくよりも、竹井さんが最初におっしゃったとおり、ここでエコを本当にやるなら中原のエコのパターンを示そうよとか、もう少し有効に——ごめんなさい、今が有効じゃないというのじゃないんですけれども、そこから出ていることなので、もう少しそういうことをしてみたいなど。

横川委員長 そうですね。私たちを取り巻く状況は決していい状況じゃないですよ。それは国がそういう感じだというのは、毎日テレビで見て知っているでしょう。だから区役所だけが踏ん張ったってどうしようもないというところもあるのね。新区長さんが頑張らずっと大きくなろうといったって、それは無理なことなのよ。ですから、あなたの言う裏の部分もこれから中原でどんな裏の部分があるか、それを探すのも私たちの仕事だと思うんですよ。そして、住みよいまちづくりというのはそういうところから来ていると思うんですよ。皆さんも気がついていても、こういうところだとみんなよそ行きの顔をしてなかなか言わないでしょう。でも、あなたが言ってくれたことのきっかけで、考えている方もおられるかもしれません。

でも、今日のお子さんを交えた行事というのは、絶対にだれが見てもいやされますでしょう。ですから私、時々ああいうのを駅前の大きなあれで流して、まち行く人を見ると、子どもを交えてああいうものが中原でもあるんだなということを考えたり思わせるだけでもよろしいと思うんですよ。

内藤委員 今まで区役所さんでつくられたのは、どなたがつくるかわからないけれども、皆さん手づくりでやっておられるわけでしょう。すごくいいものができると思うので、あれを区役所の外に流すことはあるんですか。

横川委員長 例えば平和館などは去年のビデオでもずっと流しているんです。ですから、ぜひそういうチャンスや場所をつくっていただければ、皆さんもっと愛着を持つと思うんです。

内藤委員 先生、先ほどおっしゃってましたね。区役所に流したらどうだと。

横川委員長 もうそれでよろしいのですか。

高島委員 それはぜひ。ひたすら感心して聞いていたんですけれども、やはり映像で、目で訴えるということも、自然体の形のものが一番しみ込んでいくと思うんですよ。ですから、先ほど内藤さんと、今日はきれいな面が出ていますけれども、今、お子さんに対す

る問題が日本中、世界中か知りませんが、いろいろありますわね。たまに裏の面も取り上げた会議もよろしいのではないかということは、内藤さんとちらっと言っていました。

横川委員長 食品でも何でも裏のことをもう少し考えないと。健康やお子さんやお孫さんたちのことを考えてね。

多面にわたって出尽くしたような感じもいたしますけれども、この際ですから。

生富委員 情報だけですけれども、子どもの通学の安全とかいう問題については、以前にこの会議でやったことをごさいますけれども、今年県の医師会の目玉は、そういう子どもの通学の安全ということになっております。だから、その辺も区役所様の方でばらばらにやるのではなくて、統一してやった方が効率的だと思います。

横川委員長 おわかりいただけましたでしょうか。お願いするときは、先生は「区役所様」と申しておりましたよ。区長さん、お聞きになりましたか。では、よろしくお願いいたします。

ほかにごさいますでしょうか。時間がぴったりなんですよね。進行が実にうまいですね。ご意見もまだまだごさいますでしょうか、時間が参りましたので、この程度として、本日の議論を参考に、より多くの方がまちづくりに参加しやすくなるよう、地域やまたは町会にお戻りになって、または会社——今日は会社は富士通しか出てきませんでしたけれども、会社はたくさんごさいますから、その点、ご理解していただきたいと思います。改めて議論いただければありがたいと存じます。本日はご多忙のところご出席いただきました黒川様、本告様、山本様、輪島様、お聞きになった感想を言い足りなかったら、いかがでございますか。よろしいですか。

この方たちのおかげで、今日は本当に話題を提供していただきまして、今のお子様というのはいい要素もあるし、小生意気な要素もあるし、いろいろ大変でございます。でも、あれだけのビデオにおさめたというのは大したものだと思います。4人の方々、本日はお忙しい中ご出席いただきましてまことにありがとうございます。

私たちが大変強い印象を受けましたので、これ1回でさようならではございません。また追跡でおたくたちの活動を見させていただきます。15日は私、行っておりますからよろしくお願いいたします。中原もスポーツには、法政も含めて、アメリカンフットボールは大変強いと思うんですよ。有名な方たち、スターがお見えになって大変うれしゅうございました。

では、大きな拍手でお送りしていただきたいと思います。どうもありがとうございます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

〔拍手、黒川氏・本告氏・山本氏・輪島氏退室〕

横川委員長 時間が限られておりますので、次に、中原区協働推進事業についてを議題として前に取り上げました。

初めに、事務局から平成18年度中原区協働推進事業の評価についてまとめたもののご説明を受けた後、竹井協働推進事業検討部会長から総括的なご意見をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

事務局 では、私から18年度の協働推進事業の事業評価書ということでご説明をさせていただきたいと思っております。その後、竹井部会長から総括的なお話をさせていただければと考えております。少し長くなってしまうので、ご説明をさせていただきますが、どうぞお許しをいただいて少しお時間をいただきたいと思っております。

資料3をごらんいただきたいと思っております。平成18年度中原区協働推進事業の事業評価書ということで、これは平成18年度に実施されました33事業につきまして、事業の概要、事業所管課からの評価及び次年度の方向性をお示しし、さらに先ほどお話しいたしました協働推進事業検討部会からのご意見を取りまとめたものでございます。

まずその1ページ目をごらんいただきたいと思っております。中原区まちづくり委員会事業は、区づくり白書、都市マスの実現に向け、区民みずから実践できる課題を発見、活動し、よりよい中原区づくりを目指すとともに、市民活動団体への支援、交流の場づくりを行う事業でございます。

事業の成果といたしましては、中原区まちづくり推進委員会では、地域との協働を通してコミュニティ形成や地域課題の解決を図りました。また、なかはら20年構想委員会はパンジーを用いた都市景観づくりや散策コースの作成、自転車と共生するまちづくり委員会は放置自転車対策に取り組み、街頭での啓発活動を行いました。こうした取り組みは区民と行政が協働して課題の解決を図った、意義のある取り組みと考えております。今後、行政といたしましては、実践的な活動への支援に重点を置くことで効率的な支援ができるよう検討してまいりたいと考えております。

区民会議からは、委員の任期が2年のため、継続的な取り組みが難しいと感じる、年齢を問わず、気軽に参加しやすい企画を続けてほしいといったような意見がございました。

2ページに参りまして、区役所敷地内等の区民参加花植栽事業は、区役所等に草花を植栽し、潤いのあるまちづくりを目指すもので、18年度は中原駅付近の空き地など植栽場所の拡大を図ったところでございます。行政といたしましては、景観美化の向上が図られ、潤いのあるまちづくりを提供できることは意義深いことと考えておりまして、参加者の増加を図るとともに、参加される方の負担がふえないよう活動方法に工夫をする必要があると考えております。

区民会議からは、再開発地域への新たな取り組みとかNPO法人との連携について検討してほしいといったようなご意見がございました。

3ページに参りまして、中原区役所庁内飾花事業は、区役所1階に生け花を展示するも

ので、来庁者に潤いと安らぎを与えるとともに、区役所のイメージアップを図るものでございます。

区民会議からは、ロビーの雰囲気が大変よいといったご意見や、フラワーアレンジメントも取り入れてはどうかといったようなご提案がございました。

4ページに参りまして、歴史と緑の散歩マップ作成事業は、歴史資源や等々力緑地の緑、花を有効活用するため、散策マップを作成し配布するもので、1万冊を作成いたしまして、希望者に無料で配布しているものでございます。歴史と緑に焦点を当てたマップは初めての試みであり、区民からも好評であることから、区民ニーズを的確にとらえた事業であり、改訂版や増刷などについて協議してまいりたいと考えているところでございます。

区民会議からは、このマップを生かした散策事業を企画したらどうか、多くの部数を発行するならば有料でもよいのではないかとといったようなご意見をいただきました。

5ページに参りまして、区役所コンサートは、区民に質の高い音楽を気軽に楽しんでもいただき、親しまれる区役所を目指し、無料コンサートを年6回開催するものでございます。毎回盛り上がりを見せて、参加者の方には好評をいただくことができましたが、試行で実施いたしました夜間コンサートは、ランチコンサートに比べて来場者が少ないなどの課題もございました。今後は、参加対象者を広げるための工夫が必要であると考えているところでございます。

区民会議からは、夜間開催を数日実施すれば定着するのではないかと、コンサートなどの様子をビデオで紹介することもよいといったようなご意見がございました。

6ページに参りまして、中原区音楽ライブは、区内のアマチュアバンドやダンスグループに発表の場を与えるとともに、音楽などを通して区民の交流を図るため開催するもので、18年度は出場者が14組、入場者1,200人ということで大盛況のうちに終わったものでございます。実行委員の各個人の方々のスキルやノウハウが高く、質の高いイベントとなったと考えておりまして、イベント自体もボランティア主催の音楽イベントとして成長しておりますことから、今後とも区民に親しまれるイベントとなるよう実施してまいりたいと考えているところでございます。

区民会議からも、非常によいイベントである、将来、地域活動に参加しやすい環境を整えていけばよいといったような意見がございました。

7ページに参りまして、中原街道歴史シンポジウム事業は、区民に郷土意識を醸成することを目的に、中原街道の歴史についてシンポジウムを開催したものでございます。中原街道沿いは江戸時代のたたずまいを残しており、シンポジウムにおいて当時の暮らしや社会情勢などを学ぶことは、郷土意識の醸成に寄与するものであり、ふだん見なれた風景や建物の歴史が再認識される場となっていること、また、アトラクションにおいて楽しく江戸文化が紹介され、区の魅力発掘につながっていると区役所としても考えております。

区民会議からは、講話内容をビデオなどで記録し公開してほしい、総合学習に取り入れてもらい、ふるさとのよさを理解してもらおう取り組みを行ったかどうかといったような意見やご要望が出されました。

8ページに参りまして、中原区民総ぐるみスポーツ大会は、ドッジボールやスポーツラリーを通して区民の健康増進、親睦を深めるという事業で、18年度につきましてはその目的を達成できたと考えております。

区民会議からは、少しマンネリ化の傾向があるので工夫が必要だといったようなご意見がございました。

9ページに参りまして、中原区民多摩川ロードレース「マイペース」大会は、健康ランニングの普及と区民の健康増進を目的とする事業でございまして、幅広い年代の方が参加する、区民に親しまれる事業であると区役所としては考えております。

区民会議からは、手軽なスポーツとしてだれでも参加できるよいものだというご意見をいただいております。

1ページ飛ばしまして、11ページの中原区青少年吹奏楽コンサートは、中原区内の中学、高等学校吹奏楽部を対象としたコンサートでございます。練習結果の発表の場を与えるだけでなく、プロの生演奏を聴かせたり、スタッフに中高生を加えてコンサートを運営することができたところでございます。行政といたしましては、ボランティア精神を養う場ともなっていることから、青少年の健全育成に役立っていると考えているところでございます。今後は企画段階から生徒の意見を反映できるよう工夫する必要もあると考えております。

区民会議からは、青少年の健全育成につながっていると評価をいただいております。

12ページに参りまして、総合情報盤情報提供事業は、小杉駅北口に設置しております総合案内盤の清掃及び点検、文字情報の更新といった事業でございます。再開発が急速に進み、地図情報が大幅に変わることで、部品交換が困難なことなどから、そのあり方も含めて検討する時期に来ているのではないかと考えているところでございます。

区民会議からは、保守点検経費は協働推進事業ではなく、他の事業経費として要求できないか、新規事業の立案に影響があるのではないかと、中原の表玄関にふさわしいイメージアップが必要だといったようなご意見がございました。

13ページに参りまして、中原区ホームページ事業は、ホームページの運用支援と職員の技術力向上、広報マインドの醸成のため研修を行うもので、18年度はその研修を4回実施いたしました。この結果、技術や広報マインドが向上し、作業効率が向上いたしましたとともに、課題であったホームページのアクセシビリティへの対応も図ることができたところでございます。

区民会議からは、内容が古いこともあるので、しっかりと更新していただきたいといったようなご意見がございました。

14ページに参りまして、窓口サービス改善事業は、便利で快適な窓口サービスを効率的・効果的に提供するため必要な改善を行うものでございます。各種案内板などの増設やプライバシー保護のために受付カウンターの間仕切りを行ったほか、庁内案内マップの作成やお知らせボードの設置などスムーズな案内ができるようにいたしましたところでございます。また、職員全員を対象とした接客研修を実施し、あいさつキャンペーンを行うなど窓口サービスの向上に努めたところでございます。こうした結果、安心して親しみやすい区役所への第一歩が図られたとともに、今後ともこうした事業を継続してまいりたいと考えているところでございます。

区民会議からも、職員の対応や雰囲気が変わった、プライバシー保護の仕切りやローカウンターなど整備が進み、区役所に来庁しやすくなった、区民の声を事業に反映してほしいといったようなご意見がございました。

15ページに参りまして、自転車等放置防止啓発リーフレット作成事業は、駐輪場の案内図、自転車の放置防止、利用者マナー、モラル等を記載したリーフレットを作成し、自転車利用者などへ配布し啓発活動を行うもので、区内6駅で1万部配布したところでございます。駐輪場の場所や料金、マナー、モラル等が簡潔に取りまとめられていることから、案内、啓発がしやすくなり、放置自転車対策の一助になったと考えているところでございます。

区民会議からは、区が放置自転車に取り組んでいる姿勢がわかる、町内会・自治会の協力を得て全戸配布や、単身者世帯への対応も必要といった意見がございました。

16ページに参りまして、中原区地域子育て支援推進事業は、区社協、民生委員児童委員協議会が主体となって行っている子育てサロンでございます。この子育てサロンに参加することで、孤立化による育児不安が軽減されると考えております。今後、転入者が増えますことから、この事業に対するニーズはますます高まってくるものと考えているところでございます。

区民会議からは、会場が手狭になっている、多くの人が参加できるような工夫が必要だ、サロンに参加できない地域で孤立した母親をいかに支えるかが課題だといったようなご意見がございました。

17ページに参りまして、こころ育ての子育て支援推進事業では、マタニティー&ファミリーコンサート及び講演会を開催いたしました。コンサートは、赤ちゃんを抱っこすることの大切さを啓発する機会となり、講演会では、よりよい親子関係を形成する一助になったと考えているところでございます。

区民会議では、レコードコンサートだけでもできないか、父親が参加できるような工夫が必要だといったような意見がございました。

18ページに参りまして、ふれあいなかはら福祉まつりは、福祉分野のボランティア活動や福祉施設など区民へPRするとともに、参加団体と区民の交流ができるなど一定の成果

があったと考えております。今後は、同日開催の健康まつりとの共同開催など効率的な執行を検討してまいりたいと考えております。

区民会議からは、参加者増加に向けた取り組みが必要である、ボランティア講座に参加した学生に地域ボランティアの担い手となるきっかけとして参加してもらってはどうかといったようなご意見がございました。

19ページに参りまして、なかはら健康まつりは、参加型の健康イベントを通して区民の健康に対する知識の高揚を図ることを目的に開催された事業で、一定の成果をおさめたとともに、区内の活動団体の活動発表の場ともなっているものでございます。

区民会議からは、福祉まつりとの連携を密にすべきといったようなご意見がございました。

20ページに参りまして、子育て支援ネットワーク推進事業でございますが、子ども支援・子育てネットワークでは情報交換や子ども支援に向けての検討を行い、情報紙「子ネット通信」を発行いたしました。また、子どもにかかわる行政機関や団体などが協働して子ども未来フェスタを開催したところでございます。ネットワークとして集まることで、地域の子どもを支援していくという共通認識と連携が図られ、フェスタを開催することで参加者の交流と活動のPRをすることができたと考えております。

区民会議からは、子育て情報紙は評判がよい、フェスタは中高生のテーマも欲しい、子ども支援ネットワーク会議とPTAの連携を図り、地域ぐるみの活動となるきっかけが必要であるといったようなご意見がございました。

21ページに参りまして、子育て情報発信事業は、子育て情報ガイド「このゆびと～まれ！」を1万3,000部発行いたしますとともに、子育て情報ホームページを開催したところでございます。行政といたしましては、利用者の視点に立ったガイドブックが発行できたと考えておまして、区民会議からも子育てに役立っているという声を耳にしているといったようなご意見がございました。

22ページに参りまして、福祉ボランティア養成講座事業は、新たなボランティアを養成するために講座を開催したもので、小杉地区の社協ではパネルディスカッション、丸子地区社協では交流会、大戸地区社協では子育てサロンのボランティア講座が開催されました。行政といたしましては、講座がきっかけとなって区民主体の取り組みが企画運営される動機づけになったと考えているところでございます。

区民会議からは、企画段階から市民参加を行った方がよいとか、ボランティアを長く続けるためには、活動が負担にならず、生活の一部として生きがいにつながれるといいといったようなご意見がございました。

23ページに参りまして、多胎児育児支援事業は、通常の育児にはない負担を抱える多胎児の育児が孤立化しないために行った事業で、ボランティア講座、交流会、ふたごちゃんフェスタなどを開催したものでございます。特にフェスタでは、父親の参加により母子か

ら家族への交流が広まったほか、区民ボランティアが企画に参加していただいたことから、多胎児支援の推進が図られたと考えております。

24ページに参りまして、幼児室機能更新事業は、区役所別館の幼児室の老朽化が著しいことから、安全で快適な空間となるよう、床、壁などの張りかえ、空調設備、ロールスクリーンなどを改修したところでございます。その結果、保健福祉センター事業のサービス向上が図られたと考えています。

25ページに参りまして、中原区魅力ある区づくり推進事業一般経費は、協働推進事業を実施するための経費で、事務用品を購入いたしましたほか、冊子版区ガイドマップ2万部、大判の3,000部を作成したところでございます。

26ページに参りまして、障害者を地域で共に支える区民協働事業は、障害のある人を理解し支えていく仕組みを地域の関係機関と協力してつくり上げていくこと、また、障害者自立支援法に伴う相談業務の実態把握と、ろう高齢者ミニデイサービスの周知を目的とした事業でございます。

実態把握では、相談内容を把握することで、区が行うべき支援などの基礎資料を採取することができました。また、活動報告をまとめ、冊子を作成することで、ろう高齢者ミニデイサービスのPRが図られました。

区民会議からは、ななのわの活動を見学し感銘を受けたが、この会に参加できない方への手当ても必要だといったようなご意見がございました。

27ページのNAKAHARA Music Fes. 2006は、中原区音楽ライブの公開オーディション、28ページのNAKAHARAクリスマスコンサートは、区内の音楽イベントを支えているスタッフによるライブイベントを開催したものでございます。

29ページの等々力緑地内パンジー飾花事業は、フロンターレの試合に合わせ、パンジーケーキのオブジェなどを設置して区の花パンジーの周知を図ったものでございます。

30ページに参りまして、区役所高齢者支援課及び市民税課におけるローカウンター設置事業は、これら2課のカウンターをローカウンターに交換したもので、31ページの保健福祉センター音響設備設置事業は、区役所別館1階ロビー及び幼児室にスピーカーを設置し、健診や幼児相談の呼び出しをスムーズに行うようにしたもので、業務の効率化、確実性が図られ、来庁者へのサービス向上が図られたと考えています。

32ページに参りまして、区役所5階市民活動支援コーナー整備事業は、市民活動支援サイト構築事業に関連いたしまして、支援コーナーの浄書機能を移設するための電源設備、空調設備の整備を行ったもので、市民活動支援サイトの事業の円滑な実施に向けた環境整備が整ったとともに、会議スペースと浄書スペースが分離されましたことから、市民活動コーナーの利便性が高まったと考えております。

区民会議からは、入り口をセキュリティと防音を兼ねたガラス張りにしてはどうかといったようなご意見がございました。

最後に、33ページ、区役所コンサート音響設備整備事業は、コンサートなどで使用するスピーカーなどを購入したもので、コンサートだけでなく、会議やイベントなどへの活用も図られ、安定した音量や音質を提供できるようになりました。

以上でございます。

横川委員長 これが余り厚いのでびっくりしました。大変ありがとうございました。短時間で速やかに、はっきりした言葉でよく聞こえました。

次に部会長さんから総括的な意見をお願いします。

竹井副委員長 どうもご苦労さまでした。先日、協働推進事業検討部会、高島さんと芳賀さんと松本さんと三竹さんと私でやらせていただきまして、今の資料の最後の「区民会議からの主な意見」というところでは、その部会からの意見が入れられております。

何でこんなことをやっているかということですがけれども、資料2のA3の表を見ていただきますと、最後の4ページ目なんですけれども、この協働推進事業は昔は魅力ある区づくり予算みたいな名前がついていましたけれども、昨年度ぐらいからでしたか名前が変わりまして、全体予算は各区に5,500万円ありまして、それをこういう事業に分けて使っているという状況です。こういった内容を審議するのは、区民が参加するところではこの区民会議の場所しかないと思いますので、それで区民会議の中でこうやって説明をいただいて審議していくということになっていますので、まずそこをご理解いただければと思います。

それで、一件一件の事業は今、事務局の方から説明があったとおりですけれども、全体としてのことを、部会での内容を含めまして、私から報告させていただきます。

子育てとか音楽のコンサート関係が目立っているような感じもあるんですけれども、そういうことへの意見が結構部会の中でも多かったということをもっと報告させていただきます。

音楽関係で言うと、6つか7つぐらいの事業立てになっているかと思いますがけれども、この事業に参加している以外のいろんな音楽の活動をなさっている方もいるかと思うので、そういう方との連携などをもっととっていったらいいのではないかみたいな意見がございました。特に音楽なので、若い人が参加してくるので、いい事業なのかなというご意見もありました。

また、子育て関係の事業については、これは事業立てになっていますので、相互の連携が見えにくいんですけれども、当然やられていることかとは思いますが、さらに統合できるものは統合していくとか、そういったことで息の長い事業にしていってほしいというご意見もありました。

あと最後の方で音響設備の整備とか何点かありましたけれども、これは協働推進事業という名前がついていますけれども、そういう区役所の設備修理に使うのはおかしいなというご意見もありまして、ちゃんと別の予算立てにするならしてほしいというご意見もありま

した。

さっきの資料2の方に戻っていただきますと、最後の集計、4ページ目ですけれども、当初予算額の5,500万円に対して決算額4,849万4,746円ということで、これは委託するときに受けた業者が値引きなりサービスなり効率よく執行したということで、当初の予算よりも低い金額で実行できたということもあるんですけれども、もうちょっと早目に余る額がわかるならば、それを有効的に使うような流れというか仕組みも必要ではないのかなという意見もありました。

あと全体を通してなんですけれども、例えばさっきの駅前の情報盤の事業がございました。資料3で言うと12ページ目ですね。これは平成3年度にこの予算の枠内で設置したそうなんですけれども、一度この予算で設置したものは、その後の修繕等々もこの予算の中でやっていかないといけないということで、ある意味固定化してしまうことがあるので、できればこういうのはきちんと別の予算に移すような仕組みを、これは市全体の話だと思いますけれども、必要かなというご意見もありました。

あと継続と新規、さっきの情報盤の固定化もそうなんですけれども、いい事業は継続していくのは当然だと思うんですけれども、だんだんその継続の事業の割合が大きくなっていくと、新しいことがなかなか入りづらくなってしまいうということもあります。今後どうしていくかという話かと思えますけれども、よく言われるサンセット方式みたいな形で3年なら3年、5年なら5年ということで新しく事業を始めたものについて、そこで何らかの評価を行う。そこで必要なければ割り切ってやめる。よかったら、まだこの枠内で続ける。または別の予算として必要なものとして続けるとか、何かそういったようなことを全体的に整理しながらやっていかないと、継続とそういったもので固定的な中身になってしまうので、どうかなと、これは今言っている意見ですけれども、そういったことをちょっと感じていますので、これは来年度に向けて区民からの提案のやり方も含めて考えていけたらいいのかなと思います。

以上、部会の報告並びに部会長の意見として述べさせていただきました。

横川委員長 大変ありがとうございました。ただいま竹井部会長からご報告いただきました。内容について質疑がございましたらよろしく願いいたします。

内藤委員 中原区は5,500万円というのは、私などは区役所に顔を出すようになって薄々少しずつわかってきたことで、わからない方もいっぱいいると思うんですけれども、基本的な質問で、何で中原区は5,500万円になるのですか。

鈴木委員 全部の区でしょう。

内藤委員 全部の区がみんな5,500万円を均等に使っているということで……。

横川委員長 各地区の比較ですか。各区のですか。

内藤委員 はい。

横川委員長 川崎区とか高津区とかそういうことに比べてね。では、区長様、その辺はい

かがでございましょうか。

区長 この協働推進事業費につきましては、7区どこも同じ5,500万円という予算になっております。

内藤委員 5,500万円というのはどういう形で算定されて出ているのですか。その経緯というのは何かあるのですか。

区長 経緯と申しますか、徐々にこういった区独自の取り組みというものをそれぞれ独自で地域の課題を市民と区民との協働で解決していこうということで、かつてはこういった予算というものは歴史をひもとけばなかったわけでごさいます、すべて各局の予算ということでございまして。それがだんだん区で課題を解決するというで、ちょっと技術的なと申しますか、市の予算の仕組みで申しますと、いわゆる款項目節というのがありますが、かつてはそれぞれ例えば総務費というのは人件費ですとか一般的な経費、あるいは健康福祉局の事業ですと健康福祉費というような形で、予算を分けていたわけですが、最近になりまして区役所についてもその辺の強化をするということで、款項目の一番頭のところで区役所費というものが置かれました。そういったような形で、今予算の中で5,500万円一律各区ということでございまして、正確に手元にはございせんが、徐々にこの辺は増額をされてきているという経過がございまして。

内藤委員 わかりました。ずっと増えている傾向にあるのですか。毎年少しずつ変わってきているのですか。

区長 必ず毎年毎年増えているということはございせんけれども、何年か置きには少し増えて、今、結果として5,500万円ということでございまして。

竹井副委員長 ちょっと補足というか、知っている範囲で説明させていただきますが、たしか七、八年前は3,000万円という金額でした。財政の問題というか危機で2,700万円にたしか減らされました。そうこうしているうちに阿部市長になられて、かわられた後に、区への分権ということもありましたので、5,500万円に増やしていただいた。

名前も協働推進事業ということでの予算ですので、行政と区民でやっていく事業というのを非常に阿部市長は大切にしているかと思っておりますので、そういう名前をつけて増やしたということもあるかなと思っております。これからは協働推進事業ですので、区民と行政が何か協働でやっていくものとか、区民と区民で協働してやっていくものみたいな、そういうつくり上げていくような事業に配分していくのが多分趣旨なのかなと個人的には思っております。

内藤委員 ありがとうございます。

横川委員長 決められたお金の配分は区長様の判断でどのように使ってもよろしいことになっているのですか。

区長 これも税金でございまして、何にでもということではございせんが、一定の要綱がございまして、ざっくりとしてはもちろん今、竹井部会長がおっしゃいました協働の

事業ということは、幾つかの項目を協働推進事業費の要綱で決めている。その範囲内で私どもが中原区の場合には皆さんのご意見などもお伺いしながら決定をしているということでございます。

横川委員長 わかりました。

高島委員 前からちょっと思っていたんですけども、予算を決めていくところは、予算の金額というのはどこでどういうふうにして決まっていくものなのですか。これはシークレットですか。

横川委員長 中にも、前からご希望を強く出しているにもかかわらず、全く無視されちゃって、ほかの方にぐんと上がったとか下がったとかということをちょっとお耳に挟んで、皆さんそれぞれご意見があると思うんですけども、それはどの辺で……。

高島委員 ちょっと小さなことを言いますと、区役所のお花を飾っている、文化協会で行っていることですけども、夏はお花の維持というのは非常に大変なんですね。すぐ枯れてしまいますし、何だか値段がちょっと減らされている感じなんですけれども、先生方は自腹を切った形でやっているわけなんです。1週間もたせる、1カ月もたせるということは非常にハードに自腹を切っておりますので、そういうこともどこを対象にしてこういう金額が出ているのかと言われておりますので、もしお答えできるのであれば、予算がたくさんありますけれども、どこでどういうふうな対象になって数字が出てくるのかお聞きしたいと思っております。

横川委員長 申しにくかったら無理にはよろしいですから、また後でということもありますから、差し支えのないところでどうぞ。

事務局 まず協働する相手方と所管課が事業の把握を行いまして、今年で言うところの5,500万という枠の中で、区役所内でバランスを見ながら配分をしていき、その後、予算を所管する財政局、あるいは区を所管している総合企画局等との調整が入ってこようかと思えます。

ご希望に添えないような額になってしまったり、皆さんにご苦勞をおかけしているところもあろうかと思いますが、先程部会長さんからお話があったような、新しい事業にも目を向けていかなければならないということもございますので、初めから大きな金額を、わっと与えてしまうと、それがまた既得権と言ったら変なんでしょうけれども、いい事業でありますので減らしていくことがなかなかできないということもございますので、区役所としても、あるいは行政としても苦渋の中で決めているといったようなことでご理解いただければ非常に助かります。

横川委員長 勘弁しない人もいるでしょうけれども、それは仕方がございませんね。

竹井副委員長 この資料で「事業の方向性」というところに、「見直し・改善の上継続」「終了を見越して継続する」「現状どおり」「終了する」という項目があって、そこに黒四角になっていると思うんですけども、基本的には単年ごとにその事業を、これは今、総

務企画課の方が中心になって区役所内で評価していますけれども、基本的には継続するか終了するかは、こういう評価のもとにまず決まるのかなと聞いております。

その後、これから話もありますけれども、こういう区民会議の委員の方からの新しい事業の提案を受けるのと、区役所の中で各課に何か事業はありませんかというのを聞いていると聞いておりますので、そういうのを勘案して最終的には区長の判断で決めていると聞いております。

水品委員 18年度の一覧表に、緊急対応経費5,815,000円ということで決算されていなくて、19年度にもまたそれが出ているんですけれども、今までこれは使ったときがあるんでしょうか。具体的にどういうときに使うのでしょうか。

事務局 緊急対応経費につきましては、まず当初年度のときにある程度の事業が決まっておりますが、その後、新年度に入りまして予算が決まった後に対応しなければならないような事業が幾つか出てくると思っていますので、そういった事業に対して、名前が緊急となりますとちょっと大仰なものになってしまうんですけれども、当初では決まっていなかったような事業、あるいは必要な事業についてお金を振り分けていきたいと考えております。

水品委員 では、18年度はなかったのですか。

事務局 毎年ございます。

竹井副委員長 一覧表の3ページ、4ページ目を見ていただくと、緊急対応経費で当初予算が581万円になっていて、その下からは新規になっていまして、当然このときは予算が決まっていなかったわけですね。その後、いろいろ決めていった結果の決算で、障害者を地域で共に支える区民協働事業に154万円つけたとか、NAKAHARAクリスマスコンサートに66万円予算を出したとか、そういう経緯になります。

事務局 表のあらわし方がわかりにくくて申しわけありません。

水品委員 わかりました。

横川委員長 ご了解いただけましたか。どこの家庭でもへそくりぐらいは少し取っていないければ心配ですね。そういうことでご理解いただければありがたいと思います。

ほかにご意見がないようでしたら先へ進ませていただきたいと思いますんですけれども、いかがなものでしょうか。よろしゅうございますか。

平成18年度中原区協働推進事業の評価について、皆様にいただきました意見を、私の責任のもとにおいて補正させていただき、私ども区民会議委員の意見として、区民の皆様にお知らせしていくことにしたいと思います。それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

横川委員長 では、そのようにさせていただきます。

次に、平成19年度中原区協働推進事業計画について事務局からご説明をお願いいたします。

事務局 それでは、19年度の協働推進事業の計画と20年度のスケジュール、最後に協働型

の事業について3点続けてご説明をさせていただきたいと思ひます。

まず、平成19年度の中原区協働推進事業について、資料4を使ってご説明をさせていただきたいと思ひます。既に一部の事業につきましては実施済みではございますが、今年度計画されている事業はすべてで39事業でございます。時間も限られておりますことから、今年度新たに計画された事業を中心にご説明をさせていただきたいと思ひます。

まず、1の区民の活動による魅力あるまちづくりを目指しての分野では、(1)のまちづくり推進事業運営支援事業から(8)の中原市民活動の集い開催事業の8個が計画されております。(2)、(5)、(6)、(8)の各事業につきましては、昨年度まではまちづくり推進委員会事業として一つの事業の中で実施されておりましたが、活動実績と活動の活性化を目的に新たに事業立てをさせていただいたものでございます。それぞれの事業につきましては、区民で構成される委員会等が主体的に実施するものとなっております。また、新規事業でございます(7)の散策コース案内板設置事業は、区の課題事業として3カ年計画で実施しております中丸子緑道の整備完了と、昨年度の区協働推進事業で作成いたしました歴史と緑の散策マップの完成に合わせまして、区内の名所や史跡をめぐる際の道しるべとなる案内板を設置するものでございます。今年度は散策マップに掲載されました全6コースのうち2コース分の案内板設置を予定しているところでございます。

次に、2の明るく健康で文化の薫るまちづくりを目指してでは、(1)の区役所コンサートから(8)の中原区青少年吹奏楽コンサートの8つの事業が計画されております。新規事業でございます(4)の中原街道時代まつり支援事業は、区名の由来と言われます中原街道の歴史・文化を通して、区民の郷土意識の向上を図ることを目的とした事業でございます。この事業は、去る5月27日に既に実施されたところでございます。

次に、3の安全で快適に暮らせるまちづくりを目指してでは、(1)の総合案内盤情報提供事業から(7)の保健所ベビーカー置き場設置事業の7つが計画されてございます。新規事業でございます(4)の市民活動支援サイト事業は、地域で活動する市民活動の情報交換や情報発信の場をインターネット上に構築して、区内のシニア人材活動も含めた市民活動の活性化を目的とするものでございまして、先ほどの会議の方でも話題になったものでございます。また、(5)の青色回転灯自主防犯パトロール推進事業は、青色回転灯装着自動車によるパトロールに必要な備品を貸与するなどして、区内各地域で活動する自主防犯パトロールの支援及び活性化を目的とするもので、町内会・自治会の会長、防犯部の皆様にご説明をし、幾つかの団体からは既にお問い合わせをいただいているところでございます。(6)の区役所快適トイレリフォーム事業につきましては、事業計画後に全市的に同様の整備事業を進めていくことが決まりましたことから、協働推進事業での実施はないというものでございます。(7)の保健所ベビーカー置き場設置事業は、毎週実施しております乳幼児健診において、子どものベビーカー置き場がないことから、玄関入り口などが混雑している状況を解消するため、そして快適性と安全性の確保を目的に実施するものでござ

います。

4の地域で支える福祉社会づくりを目指してでは、(1)の中原区子育て支援推進事業から(15)の認知症予防「脳はつらつ教室」モデル事業の15事業を計画してございます。(6)のこども情報コーナー設置事業は、区の各部署がそれぞれ提供、把握しております子どもに関する情報や各団体の情報を集約して提供することを目的としてございます。(11)の乳幼児ふれあいスペース事業は、乳幼児健診に来庁される親子の仲間づくりや健やかな親子関係づくりを促進する事業でございます。(12)の母親支援相談事業は、子育てにかかわる悩みを相談できずにいる母親が地域から孤立することを防ぐ目的で、乳幼児健診の機会を利用した母親支援相談事業を実施するものでございます。(13)の軽度発達障害児育児支援事業は、軽度発達障害にかかわる専門家を招いた学術集会を通して、保護者の育児支援や区民の軽度発達障害にかかわる理解を深めることを目的とするものでございます。次に、(14)の三世代子育て支援推進事業は、祖父母世代の子育てへの関心の高まりに対応して、現代の子育て事情や子育て支援のあり方、安心して子育てできるまちづくり等について学ぶ機会を創出するものでございます。(15)の認知症予防「脳はつらつ教室」モデル事業は、週1回、認知訓練や介護予防学習会を中心としたプログラムを実施して、高齢者の閉じこもりや介護予防など高齢者の生活の質の向上を目的に実施するものでございます。

以上が19年度の事業計画でございます。

次に、20年度のスケジュールについてご説明をさせていただきます。先ほど1枚ぺらのものをお配りしたと思います。来年度の事業計画についてでございますが、20年度の事業企画提案書は7月を目途に、先ほど部会長さんからお話がございましたように、区役所の各課に企画提案を募っているところでございます。委員の皆様におかれましても、区民と区役所が協働して取り組むべき地域社会の課題についてお気づきの内容がございましたら、お配りしてございます企画提案書に必要な事項をご記入の上、ご提出いただけますようお願いいたします。その後、8月いっぱいを目途に、区役所内で企画の調整を行った後、9月上旬に予算書を作成して、予算関係部署に予算書を提出するといったような運びになる予定でございます。

なお、第2回目となる区の協働推進事業検討部会におきましては、この予算要求の流れに合わせて、多分9月上旬ぐらいになろうかと思うんですけども、皆様方のご意見を伺わせていただきたいと考えております。また、企画提案に当たりましては、各課で実施いたしました事業評価や本日皆様からいただきましたご意見などを参考にさせていただきたいと考えてございます。

最後に、市民提案型事業の説明をさせていただきます。特にこれは資料は用意してございませんが、協働推進事業などを用いて市民と行政とが協働、協力して取り組みを行う際の基準となる協働のルール作成と、このルールに関係した市民提案型事業の制度の構築について簡単にご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、協働のルールとは、市民と行政が協働に関する共通の認識を持ち、お互いの特性を生かした事業を企画、実施することを定めるもので、その結果として、市民にとってはより質の高い公共サービスの提供、実現を目的とするものでございます。具体的には市民と行政が協働して事業を実施する際には、事業の目的を共有すること、お互いが対等の関係で、互いの関係、特性を把握するなどの相互理解を深め、役割分担と責任範囲の確認をしっかりと行い、公費を使用することから、事業の公開性、透明性を高め、より充実した事業を展開するため、事業内容の成果を振り返ることなどが求められているものでございます。

また、このルールの中には、市民の方が日ごろから生活を通して把握、感じている地域社会の課題について、その解決に向けた取り組みを市民みずからが提案する制度についても触れられているところでございます。この制度が、先ほど部会長さんの方からございました市民提案型の事業でございます。

今後、中原区におきましても、この制度構築に向けて検討を進めていきたいと考えているところでございまして、作業の進捗状況に合わせまして、改めて委員の皆様にもご相談をさせていただければと考えているところでございます。以上でございます。

横川委員長 ご丁寧によくわかるご説明、ありがとうございます。それでは質問などはございませんか。どうぞ。

鈴木委員 一つお聞きしたいんですけども、この中にも前年度の事業で地域振興課で歴史と緑の散策マップをつくりましたよね。それを見たんですけども、それも市民との協働事業で、とてもよくできていたと思うんですが、その案内板づくりで1の(7)散策コース案内板設置事業がありますよね。あの中のコースの2カ所で作るということで、中丸子緑道と、あとアクセスで多摩川に行くのもたしかあったと思いますけれども、そういう場合、これは区の事業でやるんですけども、多摩川に関しては多摩川施策推進課で多摩川の歴史の渡し船の跡の表示板を3カ年計画でつくりたいという事業があるんですね。でも、その事業自体は金額としては大変少ない金額なんです。

それで、今、中原街道はあちこちにいろんな案内板がありますけれども、その中の一番ちゃちな——わかりやすい言葉で、ちゃちなと言うと怒られてしまうんですけども、もうさびている、それをもし仮につくるとして、今1基15万円ぐらいなんです。ところが、市民としては、どうせつくるのだったら、多摩川の歴史、川崎の母なる川の多摩川の案内板なのだから、渡し場の跡なのだから、もっといいものをつくりたい。せめて1基20万円だの30万円だのちゃんとしたものをつくりたいんだという希望があるわけです。

それと区の事業とがマッチングして一緒にやれば、これだけの事業だったら金額は少ないですよ。でも、両方合わせたらもっといいものができるんじゃないかなと思うんですけども、先ほどもどなたかが、どこか1カ所に言えば全部わかるようにという話がありましたけれども、それに関しまして、例えば区の事業でそういう案内板を別の予算でつく

る、本局の事業でこういうふうにつくるといふふうに別々に安っぽい簡単なものをつくってしまわないで、両方で市民が入って協働事業で立派なものをきちっと時間とお金をかけてつくる、そういうようなことといふのはできないでしょうか。

いつも、行政の縦割りでも、川崎市の中でもいろんな事業で縦割りがあり過ぎる。前も何回も言って、多摩川で余りにも縦割りがあり過ぎるということで多摩川施策推進課というのができたという経緯があつて、それと同じように、同じ事業をあっちからもこっちからもやるのではなくて、その一部だけでも区と市と市民とが協働でやっていきたいといふようなことはできないのかなと思つたんですが、それに関してはいかがでしょうか。

横川委員長 河川の責任はどこにあるのですか。

鈴木委員 川に関しては、すごいんですよ。これは一番最初に市民会議のときに私は言ったんですけども、川で子どもたちと一緒にごみを拾ったことがあるんですね。そのごみを処理してもらうのに、川崎市の生活環境事業所というところに電話をしたんです。「子どもたちとごみをいっぱい拾ったから、これをお願いしたい」と言ったら、「そのごみはどこに落ちていましたか」と言うから、「いろんなところですよ。川の中もあれば河川敷もあれば道路もあれば土手もあれば、いろんなところから拾いました」と言ったら、川崎市の生活環境事業所の方は、川はこういうふうになっていると。土手のところは国の管理、サイクリングロードは県の管理、またのり面は国の管理、それからマラソンロードは川崎市教育委員会、それから野球だとか何とかいっぱいありますよね、あのグラウンド、あそこは川崎市が占有している。その先の河川敷、私たちがよく活動している、そこは国の管理。川の中も国の管理。「だから、ばらばらのごみをまとめられても困るんだ」と言うから、私はそのとき頭にきて、血管がプチッと切れちゃって「あなた、ふざけないでください。ごみに名前が書いてありますか。場所が書いてありますか」と言ったんですね。それで「じゃあ、川崎市が持っていつてくれないのだったらいいです。国に頼みます」と言って、何かもめたらしくて、最終的には川崎市がそのとき片づけてくれたんですけども、これが一つの例なんですね。

ですから、今も全然話は違うと思うんですけども、何とかそういうふうにはできないかと。市民としては、よりよいものをつくりたいということなんです。

横川委員長 要望でございますけれども、これは川と区の中のことでですから区長様お一人では判断できないんですよ。これはまた、そちらによりよいものができるようにご努力していただいて。どんなものでしょうね。

区長 縦割りということでは申しわけございませんが、予算の仕組みもございまして、合わせわざ一本というわけにはなかなかいかないということをご理解をいただきたいと思つています。実は多摩川施策の方で多摩川への案内、その辺の事業があることは承知しているのですが、今年度どんなことをやろうとしているのか、大変申しわけございません、まだ情報交換が不十分でございますので、私どもからも環境局の方とも相談をさせていただ

て、いい方法があるかどうか考えさせていただきます。申しわけございません。

横川委員長 では、その辺はご信用なさってお任せしたらよろしいじゃないですか。

小須田委員 中原区市民健康の森を育てる会の小須田でございます。これはこれから説明されるんじゃないかと思えますけれども、私の方で注文なのですが、今、平成19年度中原区協働推進事業計画一覧表という形で事業名、予算、事業内容と事細かに書いてありますので、ここに書いてあるものとの関係をわかるようにご説明していただきたいということでございます。

横川委員長 先ほどお配りいただきました中原区協働推進事業企画提案書につきまして、どういふつながりがあるのでしょうかということです。今から立ち上げてよろしいのですか。

事務局 今、これはお話をちょっとさせていただいて、もしかしたらうまく伝わっていなかったのかもしれませんが、1枚ぺらでお渡ししたものは来年度、20年度の事業のことでございますので。

横川委員長 さっきよくわかるように説明していたんですけどもね。

事務局 済みません、舌足らずの説明で。

横川委員長 いえいえ、舌はぴったりしていました。聞いていなかった。

事務局 20年度事業のための調査をかけているものでございます。

横川委員長 最近にしては非常に民主的な行動なんです。おわかりですか。

竹井副委員長 多分、平成19年度のことを心配しているのではないかと思います。私が言う話でもありませんけれども、さっきの緊急対応経費というものもありますし、予算ですのでどう変わるかわかりませんので、何かご要望があれば個別に総務企画なりに言っておけば、うまくいくものもあるし、だめなものもあるということだと思います。早目に言ってみるしかないのかなと思います。

横川委員長 ご理解いただけましたか。

小須田委員 おっしゃることはわかりました。たまたま先ほどのご意見と関係するんですけども、この内容について、我々としては市がやるのか、あるいは区がやるのかわからない。けど、こういうものをやってもらいたいんだというものは多分にあると思うんですね。その辺について、これは区に限定したもので、18年、19年でこれを参考にしなさいというふうに理解しなければいけないのか、あるいはどこがやってもいいけれども、やってもらいたいなど。

横川委員長 それは区民会議に出たから区のこと、区の中で処理できないものは区長様だって困りますよね。だって、区の予算の中で分配するのですから、区以外の余計なことを持ってこられたら迷惑なんじゃないありませんの。どうなんでしょうか。

事務局 これはあくまでも協働推進事業の企画提案ということでございますので、市への要望というのはまた別の形になろうかと思えますので、こちらの方はとりあえず区への要

望というふうにはまずお考えになっていただければ。これは区への企画提案という形です。横川委員長 ですから、必ずしも通るとは限りません。残念な結果になるかもしれませんが、その辺、上手に書かないといけないんですよ。区の方で納得していただけるようにした方がよろしいと思うんです。

全般を見ましてもあれですけども、女性に関してのものが余り出ないですよ。女性の自立とか女性を助けるとか。女性はよほど強いものと思われているのか、女性に関しての要望とかそういうのは全くないんですよ。そういうところは女性の立場として一歩下げて考えていただければありがたいと思います。

いかがなものでしょうか。出尽くしたようでございますけれども、ただいまの説明に対して質問がなければ先へ進みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

大体この程度といたしまして、最後に中原区協働推進事業検討部会の欠員の補充についてでございますが、私から指名させていただきたいと存じます。尾澤さんの後任として、先ほどもおっしゃっていただきましたけれども、今日初めての感想でびっくりしたとかあきれたとか、何かございますでしょうか。村上様、何か一言どうぞ。

村上委員 お隣にいる外国人の方の日本語がとても上手でまずびっくりしました。

横川委員長 そんなことにびっくりしてはだめですよ。区民会議ですから。

村上委員 それから司会者の方にも、これもまたびっくりしました。

今日はボランティアということですのでボランティアに限って言いますと、私は中原区に来て60年ぐらいになるんですよ。ですから多分長い方じゃないかなと思うんですけども、親はもう亡くなったのですが、親の生きていたときの遺言で、この地に60年、長い間いたのだから、何かお返ししなければということで、もう20何年前から、いわゆるボランティアだと思うんですけどもPTAが13年、商店街が10何年、町内会も何年ということで、ちょっとやり過ぎまして我が家が傾いちゃったんですよ。最後は実際に隣の工事で10センチぐらい曲がって、そういうふうになってしまって、実は本屋を53年ぐらいやっていたんですけども、それで成り行かなくなりましてやめたんです。それが三、四年前でしょうかね。

ですから、ボランティアということについて、普通は仕事を持っていて余暇をボランティアにするとか、勤めがなくなったからやると思うんですけども、私の場合は逆転しまして、正式な仕事がないのにほとんどボランティアに費やしたということで、やっとやっと生きてきたということです。

横川委員長 では、収入はなしで……。

村上委員 それはかみさんが教室をやっているのです、それで細々とやってきたんですけども。

横川委員長 頼もしいわね。そういう男性がふえるとうれしいですよ。かみさんの主導権に乗るなんてね、とてもいいです。

村上委員 それで成り立ってきたからよかったんですけれどもね。本当に危なかったんです。

そういうことで、さっきの好きなことをやれるというのはいいですよ。私のボランティアの場合は、しょうがなく引き受けたものばかりで、非常にあわれというか。好きなことに打ち込むというのは本当にいいことだと思うんです。

一つだけ私も好きなことというのは、例の人力車ね。あれは好きで始めたことなんですよ。それで好きな人を集めたら10人近く集まって、あれはボランティア事業としては本当に自分の好きでやったことが一つだけありましたけれども、ボランティアはほどほどに好きなものをやった方がいいですね。

横川委員長 頼もしい委員としてご出席いただきありがとうございます。

村上委員 それともう一つ、ちょっと余談になりますけれども、60年住んでいることと関係するのですが、昔はこの辺は——この辺というか、中原に近いところなんですけれども、地名を「小田中（コダナカ）」と言ったんですね。正式には「コダナカ」だと思うんですけれども、南武線と中原街道の交差点、あそこにはちゃんと「コダナカ」という表示があるのですが、よそから来る人がふえるに従って「オダナカ」、「オダナカ」となっちゃったんですね。この区役所でも「オダナカ」というふうに聞くんです。

横川委員長 それは直していただきたいわね。

村上委員 まあ「コダナカ」と「オダナカ」は大したことはないのでもいいんですけれども、「上野毛（カミノゲ）」というのがありますよね。あれを「カノミケ」、「カノミケ」と言う人がいて、それはちょっとまずいなと憤っているんです。

横川委員長 大変ユニークな委員をお迎えして、なかなかこの会もよくなってくのではないかと思います。

村上委員 時間もありますので。

横川委員長 そうです。もっと続けたいですか。いいですね。この次の楽しみにしておきましょう。

村上委員 よろしくお願ひします。

横川委員長 では、村上委員というユニークな方をお迎えして、今日は「カミノケ」の講釈から始まりましていろいろとね。では、余りおうちが傾いたことは気にしないで、明るく前向きにしてくださいませね。

村上委員 はい。今は新しい建物になりましたから。

横川委員長 ここは7地区の中でも断トツに格調高く品格のある会場ですからね。

村上委員 区長さんと委員長さんの……。

横川委員長 そうなんですのよ、あなた、それをよくぞ聞いてくれました。本当にそのとおりです。そして非常に和やかで、このようにあなたのような方を迎えて、また一段と笑いが増えて結構だと思います。村上委員、よろしくお願ひいたしますね。

皆様もご理解しましたよね。では、拍手でお迎えしていただいて。（拍手）

5 閉会

横川委員長 本日予定しておりました議事はすべて終了いたしましたので、ここで区長様から一言、お願いいたします。

区長 長時間ありがとうございました。今日は「地域に参加し地域に学ぶ」というようなテーマでご議論いただきました。

一つご紹介しますと、中原区は前段でも申し上げましたが、皆さんご承知のように新しい住民の方が増えているということでございます。市民アンケートというのをやっております、この中で中原区は定住意向が割合高いということで、これからも住み続けたいという方が中原区では73.9%いらっしゃる。居住歴が短い割には定住意向が非常に強いということで、これは中原区の利便性ということなのだと思います。

したがって、前段のお話で申し上げれば、こういう定住意向があるということでございますから、皆様方のそれぞれの団体の方でもぜひ新しい住民の方にもいろんな地域活動へのお誘いといたしますか、今日の報告のございましたようなことを参考に続けていただければと思います。

私ども区役所としても、先ほども働いている世代とか、こういった方は、委員長からも非常に厳しいご指摘をいただきましたけれども、私どももそういう意味では平日はなかなか活動が難しいということもございます。市民活動支援コーナーというのが区役所の5階にもございますけれども、残念ながら区役所という庁舎が、今、協働拠点ということでそういう方向に進んでいるわけですが、もともとこの庁舎も窓口中心ということで建てられておまして、区役所には区民課、あるいは保険年金とか、いろいろな個人情報がたくさん詰まっております、区役所庁舎をどう開放していくかという2つの課題がございます。今、平日の昼間、支援コーナーを設けさせていただいておりますけれども、今の建物の中でセキュリティをどういうふうに確保していくか、それによって夜間ですとか、あるいは土日についてもそういった市民活動のコーナーも開放できないかというようなことも考えております。それによって、働いている現役世代の方などの活動も支援できればなと思っています。

それから、先ほど来ございました区の役割としては、いろんな情報を市民の方に提供していくということで、市民活動支援サイト、これはいろいろ市民の方ともご相談しながら、あるいは情報を集めながら、ぜひよりよいものを構築していきたいと思っております。

本当に長時間ご議論いただきまして、もう5時も過ぎたわけでございますけれども、私どもへのいろいろなご注文もございましたので、この辺についてはまた受けとめさせていただきます、対応方考えていきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

た。(拍手)

竹井副委員長 では最後にですけれども、宣伝とお知らせということで。お手元に黄色いチラシが何枚かあるかと思えますけれども、これは先ほどの平成19年度の協働推進事業の一つで、「なかはら市民活動の集い」というものです。今日のテーマであります市民活動の話でもそうなんですけれども、区内のいろんな活動グループに集まっていただいて展示とか、グループで企画していただいているいろんな行事をやりますので、7月21日、22日、来週の土日です。土曜日21日は17時、午後5時から前夜祭ということで音楽祭をやります。場所は市民館です。22日は10時から4時半までいろんな企画がありますので、ぜひごらんください。

何をやっているかわからないみたいな話も先ほどありましたけれども、今回は小学生向けのチラシとか、音楽好きの人のためのチラシとか、鈴木真知子委員にも協力していただいて、まち歩きということで外の活動が好きな方とか、チラシもたくさんつくって、いろんな層というか、ところに情報が届けばいいということで事務局の方に苦勞していただい

てつくっておりますので、ぜひ皆さんもお知り合い等を含めてご参加、ご出席いただければと思います。

あと最後に、東横線は今年80周年記念だそうですので、古い写真を東急さんが持っておりますして、その写真展も22日、市民館の1階のギャラリーで行いますので、先ほど60年前と言いましたけれども、80年前の写真もあるそうですので、ぜひごらんいただければと思います。

横川委員長 事務局の方でございませうか。

事務局 ございませぬ。

横川委員長 特にございませぬようですので、ここで終わりにしたいと思います。

本当に皆様からご協力を得まして、本日は新しい区長様の前で初めての会議でございましたので、大変緊張して時間がちょっと延びてしましまして、そこが非常に残念でございますけれども、皆様の新しい意見もたくさん出まして、多面にわたって本当に密度の濃い、円滑な会議を終わることができました。副議長ともども心から御礼申し上げます。

ご出席いただきました皆様のご健勝でますますご活躍なさいますことをお祈りいたしまして、本日の会議を閉じたいと思います。本当にご協力ありがとうございました。(拍手)

午後5時04分 閉 会